

Orchestrator 導入 ステップバイステップガイド

2019 LTS 対応版



Information contained herein is confidential and may be disclosed only with the written permission of UiPath. All rights reserved.



リビジョン履歴

Date	Version	Author	Description
9 th June 2018	2018.2	Hideaki.F	First version for v2018.2 release
1 st Nov 2018	2018.3	Hideaki.F	Updated for v2018.3 release
31 st May 2019	2019.4	Hideaki.F	Updated for v2019 FT release
14 th Nov 2019	2019.10	Hideaki.F	Updated for v2019 LTS release



商標について

- UiPath のソフトウェア、製品、サービス、(これには、UiPath Orchestrator、UiPath Robot、UiPath Studio が含まれますが、これらに限りません) はアメリカ合衆国で登録された UiPath Inc.、および他の 国・地域で登録された UiPath の関係会社の商標または登録商標です。 UiPath のロゴは UiPath Inc., が所 有するものであり、UiPath の事前の明示的な許可なく、お客様及びその他の方が使用することはでき ません。
- Microsoft のソフトウェア、製品、サービス (これには、 Microsoft、 Windows、 Windows Server、 SQL Server 及び Active Directory が含まれますが、これらに限りません) は アメリカ合衆国で登録された Microsoft Corporation 及び他の国・地域で登録されたその関係会社の商標または登録商標です。
- Oracle のソフトウェア、製品、サービス (これには、 Java も含まれますがこれに限りません) はアメリ カ合衆国で登録された Oracle 及びその他の国・地域で登録された関係会社の商標または登録商標で す。
- Elastic は、 Elastic N.V. 及びその関係会社の商標または登録商標です。
- Redis は、 Redis Labs Ltd の商標です。
- その他、記載されている製品名、会社名およびサービス名はそれぞれの各社の商標または登録商標です。

免責事項

- 本ガイドの内容は 2019 年 11 月現在の情報であり、下記の製品リリースに基づいております。
 - UiPath Orchestrator v2019 LTS
- 製品の新しいリリース、修正プログラムなどによって、本ガイドの説明と異なる動作・仕様となる可能性がありますので、予めご留意ください。
- 本ガイドに含まれる情報は可能な限り正確を期しておりますが、UiPath株式会社の正式なドキュメントではありません。本ガイドに記載された内容に関してUiPath株式会社は何ら保証していません。従って、本ガイドに含まれる情報の利用はお客様の責任においてなされるものであり、UiPathはガイドの内容によって受けたいかなる被害に関して一切の補償をするものではございません。
- 本ガイドは UiPath を法的に拘束する書類ではありません。UiPath はお客様に通知なくして、本ガイド の内容の一部または全部を修正及びアップデートできます。
- お客様は UiPath および執筆者の書面の承諾なしで本ガイドを複製、修正、頒布できません。

Ui Path[™]

目次

内容

	リヒ	、ジョン履歴1
	商樗	『について2
	免責	青事項2
	目次	
1.	はじ	`めに5
2.	Orcł	nestrator インストール前の準備6
Â	2.1.	必要なコンポーネントのダウンロード6
2	2.2.	前提条件のコンポーネントのインストール7
2	2.3.	サーバー証明書のインストール11
2	2.4.	SQL Server のインストールと設定12
3.	Orcł	nestrator インストール手順16
	3.1.	冗長化構成に応じた手順の概要16
	3.2.	Orchestrator インストール (スタンドアローン構成)16
	3.3.	Orchestrator インストール (v2019 FT/LTS 冗長化構成)21
	3.4.	Orchestrator インストール (v2018.4 冗長化構成)22
4.	Orcł	nestrator インストール確認と初期設定25
5.	Elas	ticsearch / Kibana 連携
ľ	5.1.	Elasticsearch の構成概要
ľ	5.2.	Windows 版 Elasticsearch のインストール
ŗ	5.3.	Elasticsearch の設定パラメーター32
ŗ	5.4.	Windows 版 Kibana のインストールと設定手順33
ŗ	5.5.	Orchestrator での Elasticsearch 接続設定と動作確認
ľ	5.6.	Linux 版 Elasticsearch のインストールと設定手順
ŗ	5.7.	Linux 版 Kibana のインストールと設定手順40

Ui Path[™]

6.	種々	の設定	.41
	6.1.	UiPath Robot / Studio との接続設定	.41
	6.2.	Active Directory 連携	.43
	6.3.	高密度 (High Density) ロボットの使用	.49
	6.4.	テナントの作成	. 53
	6.5.	組織単位 (ユニット) の作成	. 55
7.	アッ	プグレード	. 57
	7.1.	アプローチ策定	. 57
	7.2.	事前確認項目	. 57
	7.3.	事前作業	. 57
	7.4.	インプレースアップグレード (スタンドアローン構成)	. 58
	7.5.	インプレースアップグレード (冗長化構成)	. 59
	7.6.	別建てアップグレード	. 59
	7.7.	ロールバック手順	.61



1. はじめに

- 本文書では Orchestrator v2019 LTS (Long Term Support) を Windows Server 2016 (日本語) にインストール する手順について説明します。スクリーンショットは主に Windows Server 2016 環境で取得しています が、手順は Windows Server 2012 R2 においても同様です。
- 本文書は Orchestrator v2018.4 および v2019 FT (Fast Track) にも対応しております。Orchestrator のバージョンに依存する手順については、下記の注意書きを適宜加えております。
 - COC v2018.4】… Orchestrator v2018.4のみに適用
 - COC v2019 FT 以前】… Orchestrator v2018.4 および v2019 FT に適用
 - COC v2019 FT 以降】… Orchestrator v2019 FT および LTS に適用
 - > 【OC v2019 LTS】… Orchestrator v2019 LTS のみに適用
- 本文書を参照するにあたり下記の事項が前提知識となります。
 - ➢ Windows Server の概要と基本操作
 - ▶ IIS (インターネットインフォメーションサービス)の概要と基本操作
 - ➢ SQL Server の概要と基本操作
 - ▶ UiPath Orchestrator の概要: <u>https://www.uipath.com/ja/products/orchestrator</u>
- システム要件は Web サイトのガイドを参照してください。
 - ハードウェア要件: <u>https://docs.uipath.com/orchestrator/lang-ja/docs/hardware-requirements-orchestrator</u>
 - ンフトウェア要件: <u>https://docs.uipath.com/orchestrator/lang-ja/docs/software-requirements</u>
- 最小構成では Orchestrator と SQL Server をそれぞれインストールするために 2 台の Windows Server を 準備します。検証環境では共存も可能ですが、本番環境では分離することを強く推奨します。なお冗 長構成や Elasticsearch を使用する場合には、更に多くの台数のサーバーマシンが必要となります。
 - ▶ 構成の一例を下記に示します。緑点線で囲まれた2台構成がスタンドアローン最小構成となります。





Load Balancer の構成、Redis の構成、SQL Server の冗長化、Elasticsearch の冗長化については本文書では取り扱いません。

2. Orchestrator インストール前の準備

2.1. 必要なコンポーネントのダウンロード

- 前提条件となる次のコンポーネントをダウンロードします。
- Orchestrator
 - NET Framework 4.7.2: <u>https://support.microsoft.com/ja-jp/help/4054530/microsoft-net-framework-4-7-2-offline-installer-for-windows</u>
 - ◆ Orchestrator v2019 LTS では前提条件の .NET Framework バージョンは 4.7.2 以上となっています。
 - ◆ Windows Server 2012 R2 で.NET Framework をインストールするには、あらかじめ KB2919355 が 適用されていることを確認します: <u>https://www.microsoft.com/ja-</u> jp/download/details.aspx?id=42334
 - URL Rewrite 2.1: <u>https://www.iis.net/downloads/microsoft/url-rewrite</u>
 - ◆ English: x64 を使用
 - Orchestrator ロール設定スクリプト: <u>http://www.uipath.com/hubfs/server/AddServerRolesAndFeatures.zip</u>
 - 最新版 Orchestrator インストーラー: <u>https://download.uipath.com/UiPathOrchestrator.msi</u>
- Microsoft SQL Server
 - ▶ 適切なエディションのメディアを準備します。
 - ◆ 検証目的の場合では Express Edition も使用可能です: <u>https://www.microsoft.com/ja-JP/download/details.aspx?id=55994</u>
 - ◆ SQL Server 2017 Express Edition の制限事項についてはこちらをご参照ください。 <u>https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/sql-server/editions-and-components-of-sql-server-2017?view=sql-server-2017</u>
 - ◇ なお Orchestrator 本番環境では Express Edition の SQL Server はサポートされません。
 - Microsoft SQL Server Management Studio (SSMS): <u>https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/ssms/download-sql-server-management-studio-ssms</u>
- 注意:
 - ト 旧バージョンの Orchestrator インストーラーが必要な場合には UiPath 社までお問い合わせください。
 - 前提条件のそれぞれのコンポーネントと UiPath インストーラーをダウンロードした後、それぞれの ファイルを右クリック、プロパティを開き、セキュリティ警告が表示される場合には、ファイルア クセスを許可する チェックをオンにします。



🖟 UiPathOrches	trator.msiのプロパティ	×
全般 互換性	デジタル署名 セキュリティ カスタム 詳細 以前のバージョン	
17	UiPathOrchestrator.msi	
ファイルの種類:	Windows インストーラー パッケージ (.msi)	
プログラム:	Windows® インストーラー 変更(C)	
場所:	C:¥Users¥hfujiwara¥Downloads	
サイズ:	147 MB (154,558,464 パイト)	
ディスク上 のサイズ:	147 MB (154,558,464 パイト)	
作成日時:	2018年10月26日、13:30:16	
更新日時:	2018年10月26日、13:33:09	
アクセス日時:	2018年10月26日、13:30:16	
属性: □	読み取り専用(<u>R</u>) □ 隠しファイル(<u>H</u>) 詳細設定(<u>D</u>)	
セキュリティ: こ た め 可	のファイルは他のコンピューターから取得し ものです。このコンピューターを保護するた このファイルへのアクセスはブロックされる 能性があります。	
	OK キャンセル 適用(A)

2.2. 前提条件のコンポーネントのインストール

- Orchestrator をインストールするサーバーでロール設定スクリプトを実行し、必要な役割と機能を有効にします。
 - ➤ AddServerRolesAndFeatures.zip をローカルディレクトリに解凍します。
 - ▶ Windows PowerShell (64 ビットモード)を管理者として実行します。
 - ▶ 次のコマンドを実行し、PowerShell スクリプトの実行を許可します。

Set-ExecutionPolicy Unrestricted

▶ 解凍ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行し、エラーが発生しないことを確認します。

.\InstallRolesAndFeatures.ps1

▶ 管理者: Windows PowerShell DS_CLVTEUDXAddCamus vDalasAndEesturges、SataEvenutionPality, Userstricted	-		×
FS C. Them Addperventores and eaterles? Set Execution only onlest noted 実行ポリシーの変更			
実行ホリシーは、信頼されていないスクリフトからの保護に役立ちより。実行ホリシーを変更すると、about_Execution のヘルブトビック(http://go.microsoft.com/fwlink/注linkID=135170) で説明されているセキュリティ上の危険にさらされる可能性があります。実行ポリシーを変更しますか? [Y](はい(Y) [A]すべて続行(A) [N] いいえ(N) [L]すべて無視(L) [S]中断(S) [?]ヘルブ(既定値は ″N″): y PS C:¥TEMP¥AddServerRolesAndFeatures>、¥InstallRolesAndFeatures.ps1 Your OS version is:Windows Server 2016 Standard	1_Pol	icies	
Computername (Press Enter for current computer - SRV01): Installation will take place on the following computers: SRV01 Connection succeeded to: SRV01			
Success RestartNeeded ExitCode FeatureResult			
True No Success {ASP.NET 4.6, HTTP アクティブ化, TCP アクティブ化, Windows プロセス アクティ	ブ化	サー	
PS C:¥TEMP¥AddServerRolesAndFeatures> _			~

Ui Path[™]

● サーバーマネージャーで役割と機能の追加ウィザードを起動し、次の役割と機能がインストールされ ていることを確認します。

Web サーバー(IIS) (21/43 個をインストール済)	
[X] Web サーバー (IIS)	Web-Server
[X] Web サーバー	Web-WebServer
[X] HTTP 共通機能	Web-Common-Http
[X] HTTP エラー	Web-Http-Errors
[X] ディレクトリの参照 (※ 注 2)	Web-Dir-Browsing
[X] 既定のドキュメント	Web-Default-Doc
[X] 静的なコンテンツ	Web-Static-Content
[] HTTP リダイレクト	Web-Http-Redirect
[] WebDAV 発行	Web-DAV-Publishing
[X] セキュリティ	Web-Security
[X] 要求フィルター	Web-Filtering
[] IIS クライアント証明書マッピング認証	Web-Cert-Auth
[X] IP およびドメインの制限	Web-IP-Security
[X] SSL 証明書の集中サポート	Web-CertProvider
[X] URL 承認	Web-Url-Auth
[X] Windows 認証	Web-Windows-Auth
[X] クライアント証明書マッピング認証	Web-Client-Auth
[]ダイジェスト認証	Web-Digest-Auth
[X] 基本認証	Web-Basic-Auth
[X] パフォーマンス	Web-Performance
[X] 静的なコンテンツの圧縮	Web-Stat-Compression
[]動的なコンテンツの圧縮	Web-Dyn-Compression
[X] 状態と診断	Web-Health
[X] HTTP ログ	Web-Http-Logging
[] ODBC ログ	Web-ODBC-Logging
[]カスタム ログ	Web-Custom-Logging
[]トレース	Web-Http-Tracing
[]ログ ツール	Web-Log-Libraries
[]要求の監視	Web-Request-Monitor
[X] アプリケーション開発	Web-App-Dev
[].NET 拡張機能 3.5	Web-Net-Ext
[X] .NET 拡張機能 4.6	Web-Net-Ext45
[] Application Initialization	Web-AppInit
[] ASP	Web-ASP
[] ASP.NET 3.5	Web-Asp-Net

Ui Path[™]

[X] ASP.NET 4.6	Web-Asp-Net46
[] CGI	Web-CGI
[X] ISAPI フィルター	Web-ISAPI-Filter
[X] ISAPI 拡張	Web-ISAPI-Ext
[X] WebSocket プロトコル	Web-WebSockets
[X] サーバー側インクルード	Web-Includes
[] FTP サーバー	Web-Ftp-Server
[] FTP サービス	Web-Ftp-Service
[] FTP 拡張	Web-Ftp-Ext
[X] 管理ツール	Web-Mgmt-Tools
[X] IIS 管理コンソール	Web-Mgmt-Console
[] IIS 6 管理互換	Web-Mgmt-Compat
[] IIS 6 メタベース互換	Web-Metabase
[] IIS 6 WMI 互換	Web-WMI
[] IIS 6 スクリプト ツール	Web-Lgcy-Scripting
[] IIS 6 管理コンソール	Web-Lgcy-Mgmt-Console
[X] IIS 管理スクリプトおよびツール	Web-Scripting-Tools
[]管理サービス	Web-Mgmt-Service
.NET Framework 4.6 Features (5/7 個をインストール済)	
[X] .NET Framework 4.6 Features	NET-Framework-46-Features
[X] .NET Framework 4.6	NET-Framework-46-Core
[X] ASP.NET 4.6	NET-Framework-46-ASPNET
[X] WCF サービス	NET-WCF-Services46
[X] HTTP アクティブ化	NET-WCF-HTTP-Activation
[X] TCP アクティブ化	NET-WCF-TCP-Activation
[X] TCP ポート共有	NET-WCF-TCP-PortSharing
[] メッセージ キュー (MSMQ) アクティブ化	NET-WCF-MSMQ-Activation
[]名前付きパイプのアクティブ化	NET-WCF-Pipe-Activation

- 注 1: PowerShell スクリプトの実行が失敗する場合には、上記の役割と機能を手動で追加します。
 特定環境下 (.NET Framework 4.6.2 の更新 KB3151864 がインストールされた環境など)において、手動でも TCP アクティブ化が有効にできない事象が報告されているため、Windows Server インストール直後にこのスクリプトを実行することを推奨します。
- 注 2:「ディレクトリ参照の機能」は InstallRolesAndFeatures.ps1 によって追加されますが、
 Orchestrator の運用上必須ではないため、セキュリティ向上の観点から手動でこの機能を削除して
 も構いません。



● 次のコンポーネントを順次インストールします。

	.NET Framework 4.7.2
📲 Microsoft .NET Framework – 🗆 🗙	
.NET Framework 4.7.2 セットアップ 続行するには、ライセンス条項に同意してください。 .NET	
マイクロソフト ソフトウェア追加ライセンス条項 ^	
MICROSOFT WINDOWS オペレーティング システム用 .NET FRAMEWORK および付属言語バッケージ	
Microsoft Corporation (またはお客様の所在地に応じた関連会社。以下「マイクロ ソフト」といいます)は、お客様に本追加ソフトウェアの使用を許諾するものとしま す。お客様が Microsoft Windows オペレーティング システム ソフトウェア (以下「本 ソフトウェア」といいます)を使用するためのライセンスを取得している場合は、本追 加ソフトウェアを使用できます。本ソフトウェアのライセンスを取得していない場合、お 客様は本追加吻を使用することはできません。お客様は、本ソフトウェアの有効なラ イヤンス取得済みの複製1 部ごとに本追加パフトウェアを使用できます。	
✓同意する(A)	
データ収集については、 <u>Microsoft プライバシーに関する声明</u> をご覧ください。	
インストール() キャンセル	
	URL Rewrite 2.1
提 IIS URL Rewrite Module 2 Setup - 〇 ×	
License Agreement	
MICROSOFT SOFTWARE	
SUPPLEMENTAL LICENSE TERMS	
URL REWRITE MODULE	
Microsoft Corporation (or based on where you live, one of its affiliates) licenses this	
supplement to you. If you are licensed to use	
(the "software"), you may use this supplement.	
You may not use it if you do not have a license for the software. You may use this supplement	
✓ I accept the terms in the License Agreement	
Print Back SInstall Cancel	



2.3. サーバー証明書のインストール

- IIS にて HTTPS 通信を行うためサーバー証明書をパブリック証明機関 (CA)、ドメイン証明機関 (CA) また は自己署名にて発行します: <u>https://docs.uipath.com/orchestrator/lang-ja/docs/using-a-certificate-for-the-</u> <u>https-protocol</u>
- 自己署名証明書は検証環境でのみ使用することを推奨します。
- 自己署名証明書発行には次の手順を実行します。

		IIS マネージャーを起動し、
		―――――――――――――――――――――――――――――――――――――
🎙 インターネット インフォメーション サー	ービス (IIS) マネージャー	
		■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■
7ァイルビ 表示① ヘルプ(出) 接続 ③マール (金) (金) (金) ④ スタートページ ● 3 スタート ● 3 スター	サーバー証明書 SSL に対して模成された Web サイトで Web サーバーが使用できる証明音を要求および管理するには、この機能を使用します。 ZYMクロ・	明音>日已者石八り証明音の 作成をクリック ^{RD frg} 90 frg 90 f
≠備完了 自己要名 (ご家) (記明信 (Sw01) 新しい) (個人	こしていたり、 マーンドリタを指定します 2)レンドリタを指定してください。この情報は著名のために証明機関に送信される可能性があります: 書の可水ッパウムを指定してください(2): (個)目的証明書ストアを選択してください(5):	*



2.4. SQL Server のインストールと設定

● SQL Server インストールと設定には次の点に留意します。

∙のみです。 夏に応じて追加機能を選択します。
そに応じて追加機能を選択します。
そに応じて追加機能を選択します。
そに心して追加機能を迭がします。
「序を指定します。
照合順序指定子: Latin1 General
八丈子と小丈子を区別9 る: 1 ノ
アクセントを区別する: オン
をクリックし 昭合順序が
ni General CIASと る示されるこ
 注確認します。 死に構築済みの共用 SQL Server を
全確認します。 死に構築済みの共用 SQL Server を 引する場合など照合順序を指定でき い場合には、データベースを作成す
1















□■ サーバーへの接続		×	新しく作成したユーザーで SQL Server にログインできることを確認します。
	SQL Server		
サーバーの種類(T): サーバー名(S): 認証(A): ログイン(L): パスワード(<u>P</u>):	データベース エンジン SQL01 SOL Server 認証 uipath_sql ******** □ パスワードを保存する(M) 接続(C) キャンセル ヘルブ オブション	 ✓ ✓	

3. Orchestrator インストール手順

3.1. 冗長化構成に応じた手順の概要

- Orchestrator のインストール手順は冗長化構成有無により異なります。
 - ▶ 冗長化構成なし… MSI でインストールおよび初期設定 (<u>手順 3.2 参照</u>)
 - > 冗長化構成あり... MSI でインストール後、スクリプトで初期設定 (<u>手順 3.2</u> および【OC v2019 FT 以 降】<u>手順 3.3</u> または【OC v2018.4】<u>手順 3.4</u>参照)
- 3.2. Orchestrator インストール (スタンドアローン構成)
- MSI インストーラー UiPathOrchestrator.msi を使用して Orchestrator をインストールするには次の手順 を実行します。
 - 詳細な手順は <u>https://docs.uipath.com/orchestrator/lang-ja/docs/the-windows-installer</u> をご参照ください。



WPath Orchestrator 世がアウブ v1910.14 - × WPath Orchestrator 0使用時程度等15-% ・ × F落端が WPath BPA Platform 20使用時程度等15-% ・ * >7-5 常然が、WPath BPA Platform 20使用時程度等15-% ・ * >7-5 常然が、WPath BPA Platform 200-70	WPath Orchestrator 世外アップ v1310.14 - × WPath Orchestrator 00年間計画探知者も放為ください いのします。 キャンセル PS 強力 UPath SPA Platform で世界けたみまた。このリング先 Dime / Newshork Control and Orchestrator 11 addiant/Scale - accent and Dime in a strain Dime in a Strain PSA Platform で世界計画の構成を確認し、[インストール] をクリックします。 キャンセル PS 強力 UPath SPA Platform で世界計画器 2012 Dime / Newshork Accent and Dime in a strain Dime in a Strain PSA Platform でサアップ v13202 Dime in a strain PSA Platform Comparison PSA Platform PSA Platform Comparison PSA Platform PSA Pl				UiPathOrchestrator.msi を実行し、使用
WPath Orchestrator 0使用時業業業等責意的なください レーレーレーレーレーレーレーレーレーレーレーレーレーレーレーレーレーレーレー	WPath Orchestrator の使用時温気物身を始読みくどさい 正一下の「 WPath Orchestrator の使用時温気物身を始読みくどさい 正一下の「 WPath Orchestrator の使用時温気物身を始読みくどさい 正 WPath Orchestrator の使用時温気がらきをも読みくどさい 「 WPath Orchestrator の使用時温気がらきを始読みくどうい 「 WPath Orchestrator の使用時温気がらこのにない UPath Orchestrator のがったい WPath Orchestrator のがったい UPath Orchestrator (日時間気がらうくたっくの時間時間気がらう、 UPath Orchestrator (日からかけ用したい UPath Orchestrator (日からから用したい UPath Orchestrator (日からからのしたい UPath Orchestrator (日からからのしたい UPath Orchestrator (ワックフック・レックレックレます。 Contestrator (ワックック・レック・レックレックレます。 UPath Orchestrator (ワックック・レック・レック・レック・レック・レック・レック・レック・レック・レック	UiPath Orchestrator ヤッ	トアップ v19.10.14	- 🗆 X	許諾契約書に同意し、[インストール]
FS電話: UPath D2A (Warding State of Conference accessing) UPath D2A (Warding State of Conference acconference acconference accessing State of Conference accessin	大学様が、UPath RPA Platform を使用される場合、このリング先、	UiPath Orchestrator	の使用許諾契約書をお読みください	UiPath [™]	をクリックします。
EPBR(P) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	COChestrator IIS 構成を確認し、[次へ] をクリックします。 のrchestrator IIS 構成を確認し、[次へ] をクリックします。 ホスト名は Orchestrator の接続 URL に 含まれる FQDN を指定します。複数の URL でアクセスできるようにするには ホスト名: FXV01.bb.loca Web サイト系: FXV01.bb.loca Web サイトス: FXV01.bb.loca FXV01.bb.loca Web サイトス: FXV01.bb.loca Web サイン	お客様が UiPath RPA PI (https://www.uipath.com のウェブサイト上にあるう お客様が、以下の該当す UiPath RPA Platform (ビューターから削除し UiPath RPA Platform (して有償のUiPath RPA Platform (して有償のUiPath RPA Platform) UiPath RPA Platformトラ	atform を使用される場合、この <u>リンク先</u> /developers/all-editions/license-agreer ライセンス使用許諾契約が適用されます でるライセンス使用許諾契約に同意しない。 のインストールおよび使用を中止し、お てください。 27月許諾契約は、ライセンス期間中、ライセ Platform をアクティベーションするお客様 ライアルライセンス使用許諾契約は、UiPa 意します(A) 1上のため使用状況やパフォーマンスのデータの 忍ください。	<u>ment)</u> の UiPath -。 場合には、 :使しのコン シスキーを使用 に適用します。 thが指定した期 × を収集します。停止方	
UiPath Orchestrator ビットアップ v19.10.14 - 、 × Orchestrator IIS 講座 Dirchestrator IIS 構成を確認し、[次へ] IIS 構成を入力して(だだい) Dirchestrator IIS 構成を確認し、[次へ] web サイト名: IPath Orchestrator NUPAth Orchestrator IIS 講座 ホスト名は Orchestrator の接続 URL に 合まれる FQDN を指定します。複数の URL でアクセスできるようにするには ホスト名: SRV01.lab.local Web サイトス: H3< Cont - Hick19507/020 + 74-#FomE51.704X	UPath Orchestrator セットアップ v19.10.14 - ・ × Orchestrator IIS 勘定 IIS 構成を介入して(ださい) Dipoth* web サイト名: UPath Orchestrator web サイト名: SRV01.lab.local web サイト名: SRV01.lab.local web サイトス: FRV01.lab.local Web サイトオート: H3 FRV01.lab.local Web サイトオート: Web サイトオート: H3 FRV01.lab.local Web サイトオート: Web サイトオート: H3 FRV01.lab.local Web サイトイ SSL TURR F 3 EL 開展のワブリンピト フィールの規則を追加 アンデインハレブ FRV01.lab.local Web サイト M3: FRV01.lab.local With # SSL TURR F 3 EL 開展のワノン ド J AL サンデノンハレブ FRV01.lab.local <	ED.扇J(P)	<u></u>	キャンセル	
UiPath Orchestrator セットアップ v19.10.14 - 、 × Orchestrator IIS 競定 IIS 構成を入力してください Orchestrator IIS 構成を確認し、[次へ] をクリックします。 Web サイト名: UPath Orchestrator Myber サイト名: SRV01.lab.local Web サイトイオート: 143 「このボートにおするファイアウォールの規則性追加 SSL IED用書: SRV01.lab.local Web サイト付 SSL rg用する証書書のサブジェウト フィールド内園園書のサブジェウト フィールド内の共通名 (CN)が異なる場合は、共通名に一致す るように SSL 証明書のフィールドを指 定してください)	UIPath Orchestrator セットアップ v19.10.14 - × Orchestrator IIS 講定 IIS 構成を入力して(だださい) IDIPath [™] ホスト名は Orchestrator の接続 URL に 合まれる FQDN を指定します。複数の URL でアクセスできるようにするには *を指定します。 Web サイト名: IJPath Orchestrator ホスト名は Orchestrator の接続 URL に 合まれる FQDN を指定します。 Station Size IIPI用書: SRV01.lab.local Web サイトボート: H3 C 2のボートに対するファイアウォールの規則を追加 Divertify Size Tell 用するセオブ Size Trip a Ele 用き ot サブジェクトフィールド内の場合には F III 2.3 を参照します。 Station For Chromatic Station Size IIPI用書: SRV01.lab.local Web サイトボート: サーバー証明書が未作成の場合には F III 2.3 を参照します。 プレライン ハレブ IIII 構成を確認し、「次への」 キャンセル				
UiPath Orchestrator ゼットアップ v19.10.14 - × Orchestrator IIS 設定 IIS 構成を入力して(だだい) ・ × Web サイト名: ///Path Orchestrator ・ ホスト名は Orchestrator の接続 URL に 含まれる FQDN を指定します。複数の URL でアクセスできるようにするには * を指定します。 Web サイト名: //Path Orchestrator ・ ・ ・ Web サイト名: //Path Orchestrator ・ ・ ・ Meb サイトス: SRV01.lab.local ・ ・ ・ ・ SSL 証明書: SRV01.lab.local ・ ・ ・ ・ ・ ・ グポートの使用可否を検証 ・	UiPath Orchestrator ゼットアップ v19.10.14 ー 、 × Orchestrator IIS 設定 UiPath Orchestrator IIS 構成を入力して(だだい) UiPath Orchestrator Web サイト名: UiPath Orchestrator ホスト名は Orchestrator の接続 URL に 含まれる FQDN を指定します。複数の URL でアクセスできるようにするには *を指定します。 Web サイトボート: 443 ○ Cのボートに対するファイアウォールの規則を追加 Web サイトが SSL で使用する世報語 SSL 証明書: SRV01.lab.local Web サイトが SSL で使用する世報語 ジオートの使用可否を検証 オンラインヘルブ 「菜へ似」 キャンセル 「菜る(図) 次へ似」 キャンセル				
UiPath Orchestrator セットアップ v19.10.14 ー ・ × Orchestrator IIS 設定 IDIPath IIS 構成を入力してください IDIPath Web サイト名: IPath Orchestrator ホスト名は Orchestrator の接続 URL に 含まれる FQDN を指定します。複数の ホスト名: SR V01.1ab.local Web サイトボート: H3 St. 証明書: SR V01.1ab.local Web サイトボ St. TOK用する証明書のサブジェクト フィールドの加速 5.7 hout サーバー 証明書 が未作成の場合には手 ガンライン ハルブ アメセル	UPath Orchestrator ゼットアップ v19.10.14 - 、 × Orchestrator IIS 設定 IIS 構成を入力してください ・ 、 、 ト名は Orchestrator の接続 URL に 合まれる FQDN を指定します。複数の URL でアクセスできるようにするには * を指定します。 web サイト名: 「Path Orchestrator * スト名: SRV01.lab.local ・ 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、				
Orchestrator IIS 設定 IIS 構成な入力して(だだい) ホスト名は Orchestrator の接続 URL に 含まれる FQDN を指定します。複数の URL でアクセスできるようにするには *を指定します。 Web サイト名: UPath Orchestrator ホスト名: SRV01.lab.local Web サイトホート: +13 Stat IIIPI書: SRV01.lab.local Web サイトホート: +13 Web サイトホート: +13 Stat IIIPI書: SRV01.lab.local Web サイトかの使用可否を検証 オンライン ヘルゴ アイールドの使用する証明書のサイジェウトフィールド内の共通名 (CN)が異なる場合は、共通名に一致するように SSL 証明書のフィールドを指 っように SSL 証明書のフィールドを指 っように SSL 証明書のフィールドを指	Orchestrator IIS 設定 IIS 構成を入力して(ださい) ホスト名は Orchestrator の接続 URL に 含まれる FQDN を指定します。複数の URL でアクセスできるようにするには *を指定します。 Web サイト名: 「JPath Orchestrator ホスト名: SRV01.lab.local Web サイトホート: 143 SSL 証明書: 「SRV01.lab.local Web サイトホート: 143 OZ.a SSL 証明書のフレンドリタンドフィールドの個を入力してください。 「ボートの使用可否を検証 カンライン ヘルブ キャンセル				Orchestrator IIS 構成を確認し、[次へ]
Web サイト名: UPath Orchestrator ホスト名: SRV01.lab.local Web サイトボート: 443 SSL 証明書: SRV01.lab.local Web サイトボート: 443 DCのボートに対するファイアウォールの規則を追加 SSL 証明書: SRV01.lab.local Web サイトが SSL で使用する証明書のサブジェクト フィールドの値を入力してください。 レボートの使用可否を検証 オンライン ハルブ 原る(E) 次へ(N) 東る(E) 次へ(N) キャンセル	Web サイト名: 」IPath Orchestrator ホスト名: SRV01.lab.local Web サイトボート: 1413 SSL 証明書: SRV01.lab.local Web サイトボート: 1413 SSL 証明書: SRV01.lab.local Web サイトボート: 1413 SSL 証明書: SRV01.lab.local Web サイトボート: SRV01.lab.local Web サイトが SSL で使用する証明書のサブジェクトフィールドのの場合には手 ガンライン ハルブ マンクト 原る(B) 次へ(M) キャンセル SR (CN) が異なる場合は、共通名のフィールドを指定してください。	UiPath Orchestrator ヤッ	トアップ v19.10.14	- □ ×	Orchestrator IIS 構成を確認し、[次へ] をクリックします。
 ホスト名: SRV01.lab.local web サイトボート: 443 ○ このボートにだけするファイアウォールの規則を追加 SSL 証明書: SRV01.lab.local Web サイトが SSL で使用する証明書のサブジェクト フィールドの値を入力して、 たさい、 ジホートの使用可否を検証 オンライン ヘルブ アメートの使用可否を検証 アメートの使用のするを検証 アメートの使用のするを検証 アメートの使用のするを検証 アメートの使用のするを検証 アメートの使用のするを検証 アメートの使用のするを検証 アメートの使用のするを検証 アメートの使用のするを検証 アメートの使用のするのサブジェクトフィールド内の共通名 アメートのレートの中の中の使用のするを検証 アメートの使用のするを検証 アメートの使用のするを検証 アメートの使用のするを検証 アメートの使用のするを検証 アメートの使用のするのサブジェクトウェールド内の共通名 アメートの中の中の中の使用のする アメートの使用のするの アメートの使用のするの	 ホスト名: SRV01.lab.local web サイトボート: 443 ② このボートに対するファイアウォールの規則を追加 SSL 証明書: SRV01.lab.local web サイトが SSL で使用する証明書のサブジェクトフィールドの値を入力にて ださい。 ジボートの使用可否を検証 オンラインヘルブ アスートの使用可否を検証 アスートの使用可否を検証 アスートの使用可否を検証 アスートの使用可否を検証 アスートの使用可否を検証 アスートの使用可否を検証 アスートの使用可否を検証 アスートの使用可否を検証 アスールドの値を入力にて アスールドのの共通名 (CN)が異なる場合は、共通名に一致するように SSL 証明書のフィールドを指定してください。 	UiPath Orchestrator セッ Orchestrator IIS 設定 IIS 構成を入力してください	トアップ v19.10.14	- □ × UiPath [™]	Orchestrator IIS 構成を確認し、[次へ] をクリックします。 ホスト名は Orchestrator の接続 URL に
Web サイトボート: 443 ○このボートに対するファイアウォールの規則を追加 SSL 証明書: SRV01.lab.local Web サイトが SSL で使用する証明書のサブジェクトフィールドの値を入力にてただい。 ジボートの使用可否を検証 オンライン ヘルブ 反360 次へ(M) キャンセル シーンイーンド内の共通名 (CN)が異なる場合は、共通名に一致するように SSL 証明書のフィールドを指 定し てください。	Web サイトボート: 143 ○このボートにさけするファイアウォールの規則を追加 SSL 証明書: SRV01.lab.local Web サイトが SSL で使用する証明者のサブジェクトフィールドの健&ネカルで、ただい。 サーバー証明書が未作成の場合には手順 ジボートの使用可否を検証 オンラインハルブ 「反ふし」 「次へい」 東る(B) 「次へい」 「ない」 キャンセル 「気る(B) 「ホへい」 「キャンセル 「このまつに、SSL 証明書のフィールドを指定してください。	UiPath Orchestrator セッ, Orchestrator IIS 設定 IIS 構成を入力してくださ(Web サイト名:	トアップ v19.10.14 UiPath Orchestrator	- □ × UiPath [™]	Orchestrator IIS 構成を確認し、[次へ] をクリックします。 ホスト名は Orchestrator の接続 URL に 含まれる FQDN を指定します。複数の URL でアクセスできるようにするには
SSL 証明書: SRV01.lab.local サーバー証明書が未作成の場合には手 Web サイトが SSL で使用する証明書のサブジェクト フィールドの値を入力してください。 順 2.3 を参照します。 ジボートの使用可否を検証 サブジェクトフィールド内の共通名 パンライン ハルブ キャンセル るように SSL 証明書のフィールドを指	SSL証明書: SRV01.lab.local サーバー証明書が未作成の場合には手順をいた。 Web by 1 kb SSL で使用する証明書のサブジェクト フィールドの値を入力にてたさい。 順 2.3 を参照します。 ジボートの使用可否を検証 オンライン ハルブ エーレーバー証明書のフレンドリ名と プレントルブ 原る⑥ 次へ№ キャンセル キャンセル	UiPath Orchestrator セッ Orchestrator IIS 設定 IIS 構成を入力してください Web サイト名: ホスト名:	トアップ v19.10.14 UiPath Orchestrator SRV01.lab.local	- □ × UiPath [™]	Orchestrator IIS 構成を確認し、[次へ] をクリックします。 ホスト名は Orchestrator の接続 URL に 含まれる FQDN を指定します。複数の URL でアクセスできるようにするには * を指定します。
		UiPath Orchestrator セッ Orchestrator IIS 設定 IIS 構成を入力してください Web サイト名: ホスト名: Web サイトポート:	トアップ v19.10.14 UiPath Orchestrator SRV01.lab.local 443 図このポートに対するファイアウォ	– × Ui Path™ 	Orchestrator IIS 構成を確認し、[次へ] をクリックします。 ホスト名は Orchestrator の接続 URL に 含まれる FQDN を指定します。複数の URL でアクセスできるようにするには * を指定します。
	オンライン ヘルプ サブジェクトフィールド内の共通名 (CN)が異なる場合は、共通名に一致す るように SSL 証明書のフィールドを指 定してください。	UiPath Orchestrator セッ Orchestrator IIS 設定 IIS 構成を入力してくださ(Web サイト名: ホスト名: Web サイトポート: SSL 証明書:	トアップ v19.10.14 UIPath Orchestrator SRV01.lab.local 443 図このポートに対するファイアウォ SRV01.lab.local Web サイトが SSL て使用する証明書のサブジェット フ	– × ● × ● ● × ● ● × ● ● ● × ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	Orchestrator IIS 構成を確認し、[次へ] をクリックします。 ホスト名は Orchestrator の接続 URL に 含まれる FQDN を指定します。複数の URL でアクセスできるようにするには * を指定します。 サーバー証明書が未作成の場合には手順 2.3 を参照します。
	Image: Constraint of the second state of the second s	UiPath Orchestrator セッ Orchestrator IIS 設定 IIS 構成を入力してくださ(Web サイト名: ホスト名: Web サイトポート: SSL 証明書:	トアップ v19.10.14	– × ● × ● ● × ● ● × ● ● ● × ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	Orchestrator IIS 構成を確認し、[次へ] をクリックします。 ホスト名は Orchestrator の接続 URL に 含まれる FQDN を指定します。複数の URL でアクセスできるようにするには *を指定します。 サーバー証明書が未作成の場合には手 順 2.3 またサーバー証明書のフレンドリ名と
るように SSL 証明書のフィールトを指 定してください	るように SSL 証明書のフィールトを指 定してください。	UiPath Orchestrator セッ Orchestrator IIS 設定 IIS 構成を入力してくださ(Web サイト名: ホスト名: Web サイトポート: SSL 証明書: □ ポートの使用可否を オンラインヘルプ	トアップ v19.10.14	– × UiPath™ → μνομμηδιάμα	Orchestrator IIS 構成を確認し、[次へ] をクリックします。 ホスト名は Orchestrator の接続 URL に 含まれる FQDN を指定します。複数の URL でアクセスできるようにするには *を指定します。 サーバー証明書が未作成の場合には手 順 2.3 を参照します。 またサーバー証明書のフレンドリ名と サブジェクトフィールド内の共通名
		 UiPath Orchestrator セッ Orchestrator IIS 設定 IIS 構成を入力してくださく Web サイト名: ホスト名: Web サイトボート: SSL 証明書: ジボートの使用可否を オンライン ヘルプ 	トアップ v19.10.14	– × ● × ● ● × ● ● × ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	Orchestrator IIS 構成を確認し、[次へ] をクリックします。 ホスト名は Orchestrator の接続 URL に 含まれる FQDN を指定します。複数の URL でアクセスできるようにするには * を指定します。 サーバー証明書が未作成の場合には手順 [返2.3]を参照します。 またサーバー証明書のフレンドリ名と サブジェクトフィールド内の共通名 (CN)が異なる場合は、共通名に一致す
		 UiPath Orchestrator セッ Orchestrator IIS 設定 IIS 構成を入力してくださく Web サイト名: ホスト名: Web サイトポート: SSL 証明書: 図ポートの使用可否を オンライン ヘルプ 	トアップ v19.10.14	– × ● × ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	Orchestrator IIS 構成を確認し、[次へ] をクリックします。 ホスト名は Orchestrator の接続 URL に 含まれる FQDN を指定します。複数の URL でアクセスできるようにするには *を指定します。 サーバー証明書が未作成の場合には重 順 2.3 を参照します。 またサーバー証明書のフレンドリ名と サブジェクトフィールド内の共通名 (CN)が異なる場合は、共通名に一致するように SSL 証明書のフィールドを指定してください。
		UiPath Orchestrator セッ Orchestrator IIS 設定 IIS 構成を入力してくださく Web サイト名: ホスト名: Web サイトポート: SSL 証明書: □ ポートの使用可否を オンライン ヘルプ	トアップ v19.10.14	– × レン・アロイン・ レン・アロイン・ アイールドの値を入力してく	Orchestrator IIS 構成を確認し、[次へ] をクリックします。 ホスト名は Orchestrator の接続 URL に 含まれる FQDN を指定します。複数の URL でアクセスできるようにするには *を指定します。 サーバー証明書が未作成の場合には手 順 2.3 を参照します。 またサーバー証明書のフレンドリ名と サブジェクトフィールド内の共通名 (CN)が異なる場合は、共通名に一致す るように SSL 証明書のフィールドを指定してください。
		UiPath Orchestrator セッ Orchestrator IIS 設定 IIS 構成を入力してくださく Web サイト名: ホスト名: Web サイトポート: SSL 証明書: □ ポートの使用可否を オンライン ヘルプ	トアップ v19.10.14	− ×	Orchestrator IIS 構成を確認し、[次へ] をクリックします。 ホスト名は Orchestrator の接続 URL に 含まれる FQDN を指定します。複数の URL でアクセスできるようにするには *を指定します。 サーバー証明書が未作成の場合には <u>順 2.3</u> を参照します。 またサーバー証明書のフレンドリ名と サブジェクトフィールド内の共通名 (CN)が異なる場合は、共通名に一致す るように SSL 証明書のフィールドを指 定してください。



🚽 UiPath Orchestrato	or セットアップ v19.10.14	- 🗆	~	· ·· <u> </u>
Orchestrator 77	クリケーション ブール設定		h™	を使用する場合には、カスタム
IIS のアプリケーショ	ンID 構成を入力してください	UIPat	n	カウントを指定し、SQL Server
名前: ID:	UiPath Orchestrator ・ アプリケーション ブール ID 〇 カスタム アカウント			権限のある Windows 資格情報を 定します。またパッケージの配 ディレクトリとしてファイルサ バーを指定する場合には読み取 書き込み権限を持つユーザーを 定します。
			•	SQL Server 認証を使用する場合
オンライン ヘルプ				は、アプリケーションプール IE
	戻 る(B)	·次へ(N) キャン	セル	たはカスタムアカウントのいず
	200			も指定することが可能です。
			SC	QL Server ホスト (名前付きインスタ を使用する場合は Server\Instance
UiPath Orchestrator デ・ Orchestrator デ・	or セットアップ v19.10.14 - タベース設定	– –	× ⊐	QL Server ホスト (名前付きインスタ を使用する場合は Server\Instance で指定)、データベース名、認証フ
UiPath Orchestrato Orchestrator デ、 SQL Server 構成を	or セットアップ v19.10.14 ー タベース設定 :入力してください	– – UiPat	× × h [™] 式	QL Server ホスト (名前付きインスタ を使用する場合は Server\Instance で指定)、データベース名、認証フ む、アカウント情報を入力します。
■ UiPath Orchestrator デ、 Orchestrator デ、 SQL Server 構成を SQL Server ホスト	or セットアップ v19.10.14 -タベース設定 :入力してください s:	– UiPat	× 式 オ 援	QL Server ホスト (名前付きインスタ を使用する場合は Server\Instance で指定)、データベース名、認証フ 、アカウント情報を入力します。 続エラーが発生する場合には、SG
 UiPath Orchestrator デ、 Orchestrator デ、 SQL Server 構成を SQL Server ホスト データベース名: 	or セットアップ v19.10.14 - タベース設定 :入力してください :: SQL01 	– UiPat	× 式 オ オ ま	QL Server ホスト (名前付きインスタ を使用する場合は Server\Instance で指定)、データベース名、認証フ 、アカウント情報を入力します。 続エラーが発生する場合には、Sc erver 側にてリモート接続設定、フ
 UiPath Orchestrator デ・ SQL Server 構成を SQL Server ホスト データベース名: 認証モード: 	or セットアップ v19.10.14 - タベース設定 :入力してください :: SQL01 UiPath 〇 Windows 統合認証	– UiPat	× h [™] 50 ス 式 式 50 ス ス 式 式 50 ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス	QL Server ホスト (名前付きインスタ を使用する場合は Server\Instance で指定)、データベース名、認証フ 、アカウント情報を入力します。 続エラーが発生する場合には、Sc erver 側にてリモート接続設定、フ アウォールと接続アカウントを確
 UiPath Orchestrator デ・ SQL Server 構成を SQL Server ホスト データベース名: 認証モード: 	or セットアップ v19.10.14 - タベース設定 :入力してください :: SQL01 UiPath 〇 Windows 統合認証 ④ SQL Server 認証	– UiPat	× h [™] は 50 ス 式 式 50 ス ス 式 式 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	QL Server ホスト (名前付きインスタ を使用する場合は Server\Instance で指定)、データベース名、認証7 、アカウント情報を入力します。 続エラーが発生する場合には、Sc erver 側にてリモート接続設定、フ アウォールと接続アカウントを確 ます。詳細な手順は次のサイトを
♥ UiPath Orchestrator デ・ Orchestrator デ・ SQL Server 構成を SQL Server ホスト データベース名: 認証モード: ユーザー名:	or セットアップ v19.10.14 - タベース設定 -入力してください SQL01 UIPath 〇 Windows 統合認証 ④ SQL Server 認証 uipath_sql	– UiPat	× h [™] 接 Se イ し 参	QL Server ホスト (名前付きインスタ を使用する場合は Server\Instance で指定)、データベース名、認証7 、アカウント情報を入力します。 続エラーが発生する場合には、Sc erver 側にてリモート接続設定、フ アウォールと接続アカウントを確 ます。詳細な手順は次のサイトを 照ください。
 UiPath Orchestrator デ・ SQL Server 構成を SQL Server ホスト データベース名: 認証モード: ユーザー名: パスワード: 	or セットアップ v19.10.14 -タペース設定 :入力してください : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	– UiPat	× ト [™] 接 Se イ し 参 M	QL Server ホスト (名前付きインスタ を使用する場合は Server\Instance で指定)、データベース名、認証7 た、アカウント情報を入力します。 続エラーが発生する場合には、Sc erver 側にてリモート接続設定、フ アウォールと接続アカウントを確 ます。詳細な手順は次のサイトを 照ください。 ttps://docs.microsoft.com/ja- /sgl/relational-databases/loscen 2
UiPath Orchestrator デ・ SQL Server 構成を SQL Server 株入ト データベース名: 認証モード: ユーザー名: パスワード: オンライン ヘルプ	or セットアップ v19.10.14 -タベース設定 :入力してください SQL01 UiPath ① Windows 統合認証 ④ SQL Server 認証 uipath_sql 	– UiPat	× 木 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	QL Server ホスト (名前付きインスタ を使用する場合は Server\Instance で指定)、データベース名、認証7 で指定)、データベース名、認証7 た、アカウント情報を入力します。 続エラーが発生する場合には、SC erver 側にてリモート接続設定、フ アウォールと接続アカウントを確 ます。詳細な手順は次のサイトを 照ください。 ttps://docs.microsoft.com/ja- /sql/relational-databases/lesson-2- onnecting-from-another-
UiPath Orchestrator デ・ SQL Server 構成を SQL Server 構成を データベース名: 認証モード: ユーザー名: パスワード: オンライン ヘルプ	or セットアップ v19.10.14 -タベース設定 :入力してください SQL01 UiPath ① Windows 統合認証 ④ SQL Server 認証 uipath_sql 戻る(B)	ー UiPat	× 式 た た セル	QL Server ホスト (名前付きインスタ を使用する場合は Server\Instance で指定)、データベース名、認証7 で指定)、データベース名、認証7 に、アカウント情報を入力します。 続エラーが発生する場合には、SC erver 側にてリモート接続設定、フ アウォールと接続アカウントを確 ます。詳細な手順は次のサイトを 照ください。 ttps://docs.microsoft.com/ja- /sql/relational-databases/lesson-2- onnecting-from-another- omputer?view=sql-server-2017
UiPath Orchestrator デ・ SQL Server 構成を SQL Server 株入ト データベース名: 認証モード: ユーザー名: パスワード: オンライン ヘルプ	or セットアップ v19.10.14 -タベース設定 :入力してください SQL01 UiPath ① Windows 統合認証 ④ SQL Server 認証 Uipath_sql 	ー しう Pat の ジャン	× 大式式 た とル セル	QL Server ホスト (名前付きインスタ を使用する場合は Server\Instance で指定)、データベース名、認証7 で指定)、データベース名、認証7 、アカウント情報を入力します。 続エラーが発生する場合には、SC erver 側にてリモート接続設定、フ アウォールと接続アカウントを確 ます。詳細な手順は次のサイトを 照ください。 ttps://docs.microsoft.com/ja- /sql/relational-databases/lesson-2- onnecting-from-another- omputer?view=sql-server-2017
UiPath Orchestrator デ・ SQL Server 構成を SQL Server 構成を データベース名: 認証モード: ユーザー名: パスワード: オンライン ヘルプ	or セットアップ v19.10.14 -タベース設定 :入力してください SQL01 UiPath ① Windows 統合認証 ④ SQL Server 認証 Uipath_sql 	– UiPati	× ト [™] セル W 在 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30	QL Server ホスト (名前付きインスタ を使用する場合は Server\Instance で指定)、データベース名、認証7 で指定)、データベース名、認証7 にで指定)、データベース名、認証7 にで指定)、データベース名、認証7 にてます。詳細を入力します。 ないてののためでは、SC erver 側にてリモート接続設定、フ アウォールと接続アカウントを確 ます。詳細な手順は次のサイトを 照ください。 ttps://docs.microsoft.com/ja- /sql/relational-databases/lesson-2- onnecting-from-another- omputer?view=sql-server-2017
UiPath Orchestrator デ・ SQL Server 構成を SQL Server 構成を データベース名: 認証モード: ユーザー名: パスワード: オンライン ヘルプ	or セットアップ v19.10.14 -タベース設定 シスカしてください SQL01 UiPath O Windows 統合認証 の SQL Server 認証 Uipath_sql ・・・・・・・ 戻る(E)		× ト [™] セル W な 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	QL Server ホスト (名前付きインスタ を使用する場合は Server linstance で指定)、データベース名、認証フ で指定)、データベース名、認証フ た、アカウント情報を入力します。 続エラーが発生する場合には、SC erver 側にてリモート接続設定、フ アウォールと接続アカウントを確 ます。詳細な手順は次のサイトを 照ください。 ttps://docs.microsoft.com/ja- /sql/relational-databases/lesson-2- onnecting-from-another- omputer?view=sql-server-2017



	Elasticsearch を使用する場合には URL
UiPath Orchestrator ヤットアップ v19.10.14 — 〇 X	を指定します。
Orchestrator Elasticsearch ログ設定 追加のログ作成に使用する Elasticsearch をセットアップします	使用しない場合には空白のままにしま
以下に接続データを入力して、Elasticsearch による追加のログ作成を有効化してくださ い。追加のログ作成を行わない場合は空白のままにしてください。 URL: http://es01:9200 □認証が必要 <u>オンライン ヘルプ</u> <u>戻る(8) 次へ(M)</u> キャンセル	インストール後、手動で Elasticsearch の URL を指定するには <u>手順 5.5</u> を参照 します。
UiPath Orchestrator セットアップ v19.10.14 ー × Orchestrator 認証設定 IDI Path™ 認証を構成してください IDI Path™	【OC v2019 FT 以降】Orchestrator ホス トパスワード (テナント管理ユーザー が使用) と既定のテナントのパスワー ドを指定します。
管理者パスワード ホストパスワード:	パスワードは8文字以上でアルファベ
Image: Second Seco	ット小又字と数字を含む必要かありま す。 Orchestrator へのログインに Windows 認証を使用する場合は、チェックをオ ンにし、ドメイン名を指定します。



	インストールを開始します。
ぱ UiPath Orchestrator セットアップ v19.10.14 – □ × UiPath Orchestrator のインストール準備完了	ユーザーアクセス制御 (UAC) のダイア ログは [はい] を選択します。
インストールを開始するには [インストール] をクリックしてください。インストール設定を確認また は変更するには [戻る] をクリックしてください。ウィザードを終了するには [キャンセル] をクリック してください。 戻る(E)	
WiPath Orchestrator セットアップ マ19.10.14 – ○ × WiPath Orchestrator セットアップ ウィザードが 完了しました セットアップ ウィザードを終了するには、「完了」ボタンをクリックし ます。 Example E	インストールが正常に完了することを 確認します。 既定のインストールディレクトリは C:\Program Files (x86)\UiPath\Orchestrator です。 インストールが失敗する場合には、管 理者権限で次のコマンドを実行しイン ストールログを取得します。 msiexec /i UiPathOrchestrator.msi /l*vx UiPathInstall.log

● 冗長化構成なしの場合は、次に <u>4. Orchestrator インストール確認と初期設定</u> を参照してください。



3.3. Orchestrator インストール (v2019 FT/LTS 冗長化構成)

- このセクションでは Orchestrator v2019 FT/LTS 冗長化構成にてインストールする手順を説明します。
 Orchestrator v2018.4 冗長化構成は<u>手順 3.4</u> をご参照ください。
- 大まかな流れは下記の通りです。
 - ▶ <u>手順 3.2</u> で MSI インストーラーを使用して Orchestrator を1台目サーバーでインストールします。
 - 1台目インストール後、C:\Program Files (x86)\UiPath\Orchestrator\Tools 配下の Configure-PlatformNode.ps1 スクリプトを使用して冗長化構成に必要な設定を行います。
 - 特定ファイル (Web.config / __MigrationHistory.txt) を任意の共有ディレクトリにコピーし、2 台目以降のサーバーはパラメーター付き (SECONDARY_NODE / CONFIGURATION_FOLDER) でインストールします。

主に使用する設定パラメーター

設定スクリプトで使用可能な主なパラメーターは下記の通りです。

パラメーター名	タイプ	既定值	説明
mode	文字列		 ConfigurePrimary… 冗長構成で最初にインストールするノードを構成し、2 台目以降のノードを構成するスクリプトを生成します。 ConfigureStandalone … 冗長構成を使用しないスタンドアローン構成に戻します。
websiteName	文字列		再構成を行う IIS 上の Orchestrator Web サ イト名
storageType	文字列	FileSystem	 NuGet パッケージの保存先ストレージの種類を指定します。 FileSystem Windows ファイルシステム (ローカルまたは共有) Azure Azure Blob ストレージ Amazon Amazon S3 ストレージ Minio MinIO ストレージ
storageLocation	文字列	RootPath=.\Storage	NuGet パッケージの保存先ディレクトリま たは接続文字列を指定します。 Windows ファイルシステムを使用する場 合は、インストール時に指定された Application Pool Identity または Custom account がこのディレクトリに対して読み



			取り / 書き込み 権限を設定可能であること
			を確認します。
			クラウドストレージを使用する場合は、
			<u>Web ガイド</u> の Storage.Location 設定を参照
			してください。
redisServer	文字列	ローカルコンピューター名	Redis サーバーのホスト名
redisPassword	文字列		Redis サーバーのパスワード
redisPort	数値	6379	Redis サーバーのポート番号

構成スクリプト実行例

● 最初の Orchestrator サーバーで実行するコマンドの例を示します。

.\Configure-PlatformNode.ps1 -mode ConfigurePrimary -websiteName "UiPath Orchestrator" -redisServer redis01 -redisPassword 123456 -storageType FileSystem -storageLocation RootPath=\\Share\Storage

☑ 管理者: Windows PowerShell	—		×
PS C:¥Program Files (x86)¥UiPath¥Orchestrator¥Tools> .¥Configure-PlatformNode.ps1 -mode ConfigurePrimary - iPath Orchestrator "-redisServer redisO1 -redisPassword 123456 -storageType FileSystem -storageLocation Ro Share¥NuGet	websi otPat	teName h=¥¥dc	.01¥
Configuring UiPath Orchestrator installation as Primary node:			
Stopping UiPath Orchestrator website Stopping UiPath Orchestrator application pool Applying Orchestrator settings changes Starting UiPath Orchestrator website Starting UiPath Orchestrator application pool			
Configuration complete PS C:¥Program Files (x86)¥UiPath¥Orchestrator¥Tools> _			,

- スクリプト実行時に事前に Orchestrator サイトを停止させる必要はありません。
- Web.config と __MigrationHistory.txt (既定インストールディレクトリでは C:\Program Files (x86)\UiPath\Orchestrator 配下)を2台目以降の Orchestrator サーバーからアクセス可能なディレクトリ (例: \\Share\Config)にコピーし、次のコマンドでインストーラーを実行します。
 msiexec /i UiPathOrchestrator.msi SECONDARY_NODE=1 CONFIGURATION_FOLDER=\\Share\Config
- インストーラー起動後、IIS 構成とアプリケーションプール設定を行い、インストールを実行します。
 SQL Server などの設定は1台目の Web.config から自動的に設定されるためインストーラー上では
 - スキップされます。
 - アプリケーションプール設定は1台目と同じ権限を設定します。

3.4. Orchestrator インストール (v2018.4 冗長化構成)

- このセクションでは Orchestrator v2018.4 で冗長化構成にてインストールする手順を説明します。
- まず<u>手順 3.2</u> で MSI インストーラーを使用して Orchestrator を各サーバーでインストールします。その際、SQL Server は同一のサーバー、同一のデータベースを指定します。

Ui Path[™]

● インストール後、C:\Program Files (x86)\UiPath\Orchestrator\Tools 配下の **Configure-PlatformNode.ps1**ス クリプトを使用して冗長化構成に必要な設定を行います。

主に使用する設定パラメーター

● 設定スクリプトで使用可能な主なパラメーターは下記の通りです。

パラメーター名	タイプ	既定值	説明
mode	文字列		 ConfigurePrimary … 冗長構成で最初にインストールするノードを構成し、2 台目以降のノードを構成するスクリプトを生成する ConfigureSecondary … 冗長構成で最初のノードの設定を利用して2 台目以降のノードを構成する ConfigureStandalone … 冗長構成を使用しないスタンドアローン構成に戻す OutputCommand … 現在のノードを構成するスクリプトを生成する
websiteName	文字列		再構成を行う IIS 上の Orchestrator Web サイト名
nugetPackagesPath	文字列	~/NuGetPackages	パッケージの保存ディレクトリ Orchestrator を複数ホストにインス トールする場合は共有ディレクトリ やマップドライブを指定する インストール時に指定された Application Pool Identity または Custom account のアカウントがこの ディレクトリに対して 読み取り/書 き込み 権限を持つことを確認する
nugetActivitiesPath	文字列	~/NuGetPackages/Activities	アクティビティの保存ディレクトリ Orchestrator を複数ホストにインス トールする場合は共有ディレクトリ やマップドライブを指定する
nugetPackagesApiKey	文字列		パッケージフィードの NuGet API キ ー



			冗長構成ではノード間で同じ値を指
			定する
nugetActivitiesApiKey	文字列		アクティビティフィードの NuGet
			API +-
			冗長構成ではノード間で同じ値を指
			定する
redisServer	文字列	ローカルコンピューター	Redis サーバーのホスト名
		名	
redisPassword	文字列		Redis サーバーのパスワード
redisPort	数値	6379	Redis サーバーのポート番号
encryptionKey	文字列		Orchestrator によって使用される暗
			号化キー
			冗長構成ではノード間で同じ値を指
			定する
machineKeyDecryptionKey	文字列		Orchestrator セッションにより使用
			される復号化キー
			冗長構成ではノード間で同じ値を指
			定する
machineKeyValidationKey	文字列		Orchestrator セッションにより使用
			される検証キー
			冗長構成ではノード間で同じ値を指
			定する
leaveWebsiteStopped	スイッチ		構成後、サイトを開始しない場合に
			指定する
			デフォルトではサイトが開始される
outputCommandFile	文字列		冗長構成で最初のノードを構成する
			時 (mode が ConfigurePrimary) に 2 台
			目以降を構成するスクリプトのファ
			イル名を指定する

構成スクリプト実行例

● 最初の Orchestrator サーバーで実行するコマンドの例を示します。

.\Configure-PlatformNode.ps1 -mode ConfigurePrimary -websiteName "UiPath Orchestrator" nugetPackagesPath \\fileshare\NuGetPackages -redisServer redis.domain.local -redisPassword 1234 outputCommandFile Install-Secondary.ps1





・ 生成された Install-Secondary.ps1 を 2 台目以降の Orchestrator において C:\Program Files

(x86)\UiPath\Orchestrator\Tools にコピーし、管理者権限にてスクリプトを実行します。Redis パスワー

ドは手入力します。



4. Orchestrator インストール確認と初期設定

● 次の手順を実行して Orchestrator が正常にインストールされていることを確認します。

						コントロール パネル\プログラム\
「 プログラムと機能				- 0	×	グラムと機能 (appwiz.cpl) で UiPath
← → ✓ ↑ ፬ → コントロール	レパネル > プログラム > プログラムと機能		✓ Č	プログラムと機能の検索	م	
コントロール パネル ホーム	プログラムのアンインストールまたは変更					Orchestrator か表示されることを確
インストールされた更新プログラムを	プログラムをアンインストールするには、一覧からプログラムを選ま	マして [アンインストール]、[変更]、また	は [修復] をクリックします。			ます。
SCA Windows の機能の有効化または						6 7 0
無効化	整理 ▼ アンインストール			8== -	0	
	名前	発行元	インスドール日 サイ	ズ パージョン	^	
	Ui UiPath Orchestrator	UiPath	2019/11/03	440 MB 19.10.2		
	Microsoft SQL Server 2012 Native Client	Microsoft Corporation	2019/11/02	10.3 MB 11.4.7001.0		
	Microsoft VSS Writer for SQL Server 2017	Microsoft Corporation	2019/11/02	3.27 MB 14.0.1000.169		
	Active Directory Authentication Library for SQL Server	Microsoft Corporation	2019/11/02	3.20 MB 15.0.1300.359		
	G Microsoft SQL Server 2017 T-SQL 言語サービス	Microsoft Corporation	2019/11/02	8.00 MB 14.0.1000.169	~	
	- UiPath 製品パージョン: 19.10.2 ヘルブのリンク: http://www.uipath.c	サポートのリンク: http://www. om 更新情報: http://www.	uipath.com サイズ: 440 M uipath.com	ИВ		



	IIS 管理コンソールを開き、
<u>चि</u> च / y9-3-9-k / y7±xk-yay H=V2 ((G) २३Уи	UiPath Orchestrator という名前でサイト
● 197-494 / 1773/4-1920 9-423 (US) 94-194- ● 1 ▲ <	UiPath Orchestrator という名前でサイト が作成されていることを確認します。
1 2005版 ● 1 2005版 URL 音を換え I5- ペ-ジ ディレクトリの参照 バンドラ-マッピング モジュール ■ 電磁とユー (2) 2057/1/-ト ● MrJ 単構発了 ● (1):	操作ペインのバインドをクリックし、
サイトバインドの編集 ? × 種類(D: IP アドレス(D): ポート(Q): https 年使用の IP アドレスすべて 443 ホスト名(D): - 」 サーバー名表示を要求する(N)	https を編集、適切な SSL 証明書が選択 されていることを確認します。 適切でない場合には手動で証明書を選 択します。
SSL 証明書(E): [rrv01.lab.local ろうかい こうかい またい) OK キャンセル	またブラウザーでアクセスする FQDN と実際のホスト名が異なる場合は、ホ スト名 を空白にして OK をクリックし ます。
パロシロのth SQL Server Management Studio (管理者) クイワク起動 (Ctrl+Q) ク マ </th <td>SQL Server Management Studio にて デー タベース > "UiPath" > テーブルを展開 し、テーブルが作成されていることを 確認します。</td>	SQL Server Management Studio にて デー タベース > "UiPath" > テーブルを展開 し、テーブルが作成されていることを 確認します。
● ⊞ dbo.Features V □ 準備完了	

Orchestrator 導入ステップバイステップガイド [2019 LTS 対応版]





	Settings Global: Settings C C General Deployment Timezone (UTC+09:00) 大版、 机像、 東京 Language 日本語 Modern Folders SAVE	Mail Security X	 Settings 画面にてタイムゾーンを (UTC+09:00) 大阪、札幌、東京に設定します。 ※必要に応じて Language を日本語に切り替えます。本文書では以降の説明は日本語の言語設定を前提とします。
・ ・ ・ ・ <td< td=""><td>クローバリト・ライセンス クセンス4- クイセンス4- クライイーンコンロ Attended 同時接続 0% Attended 同時接続 の% Studio Concurrent 0%</td><td>Produnte 中が加肥 アが加肥 ア ア ア ア ア ア ア ア ア</td><td>次のサイトを参照して Orchestrator の アクティベーションを行います。 https://docs.uipath.com/orchestrator/lang -ja/docs/activating-your-license 【OC v2019 LTS】環境に応じて [オンラ インでアクティベーション] または [オ フラインでアクティベーション] を選択 し、Orchestrator 上でアクティベーショ ンします。 【OC v2019 FT 以前】UiPath Studio がイ ンストールされた端末を使用してアク ティベーションを行い、生成したライ センスファイルを Orchestrator にアッ プロードします。</td></td<>	クローバリト・ライセンス クセンス4- クイセンス4- クライイーンコンロ Attended 同時接続 0% Attended 同時接続 の% Studio Concurrent 0%	Produnte 中が加肥 アが加肥 ア ア ア ア ア ア ア ア ア	次のサイトを参照して Orchestrator の アクティベーションを行います。 https://docs.uipath.com/orchestrator/lang -ja/docs/activating-your-license 【OC v2019 LTS】環境に応じて [オンラ インでアクティベーション] または [オ フラインでアクティベーション] を選択 し、Orchestrator 上でアクティベーショ ンします。 【OC v2019 FT 以前】UiPath Studio がイ ンストールされた端末を使用してアク ティベーションを行い、生成したライ センスファイルを Orchestrator にアッ プロードします。

Ui Path[™]

5. Elasticsearch / Kibana 連携

5.1. Elasticsearch の構成概要

- ワークフロー実行ログはデフォルトで SQL Server データベースの Logs テーブルに記録されますが、
 Orchestrator のオプション設定により Elasticsearch にもログを記録することができます。Elasticsearch
 に保存された実行ログは Kibana を使用して多角的に分析し可視化することが可能になります。
- Elasticsearch のシステム要件は次のサイトを参照してください。
- https://www.elastic.co/guide/en/elasticsearch/guide/current/hardware.html
- Elasticsearch および Kibana にアクセスするブラウザーとして Google Chrome または Mozilla Firefox を推 奨します。Internet Explorer では一部正常に表示されない場合があります。
- Elasticsearch は様々な OS でサポートされていますが、本文書では Windows 環境 (<u>手順 5.2</u>) および Linux 環境 (<u>手順 5.6</u>) にてスタンドアローンでインストールする手順について説明します。

5.2. Windows 版 Elasticsearch のインストール

- ここでは Windows 版 Elasticsearch をインストールする手順について説明します。Linux 版の手順については 手順 5.6 をご参照ください。
- 次のサイトより Elasticsearch の適切なバージョンの MSI インストーラーをダウンロードします。
 https://www.elastic.co/downloads/past-releases/#elasticsearch
 - ➢ Elasticsearch 7.x は Orchestrator v2019 LTS 以降でサポートされます。
- Elasticsearch の前提条件コンポーネントとして JRE (Java Runtime Environment) 64bit が必須となるため、 サポートされる Java バージョンを次のサイトで確認します。
 - https://www.elastic.co/support/matrix#matrix_jvm
- Oracle Java は次のサイトよりダウンロードします。
 - https://www.java.com/en/download/manual.jsp
 - ▶ なお Oracle Java ライセンスやサポート期間については Oracle 社のサイトをご参照ください。

Javaセットアップ - ようこそ ー ロ ×	JRE (64bit)をインストールします。
الله المعالم ال	インストール完了後、次の手順にて
Javaへようこそ	JAVA_HOME 環境変数を設定します。
Javaを使用すると、緊くべきコンテンツの世界にアクセスできます。ビジネス・ソリューションから有用な ユーティリティやエンターティンメントまで、様々な分野でJavaはあなたのインターネット体験を置かにします。 注意: インストール・プロセスで個人情報が収集されることはありません。 ごをクリックすると、収集され る情報について確認できます。 ライセンス契約に同意してJavaのインストールを令すぐ開始するには、「インストール」をクリックします。 ① 宛先フォルダを変更する 取消 インストール()>	https://docs.uipath.com/orchestrator/lang -ja/docs/prerequisites-for- installation#section-setting-up-java_home

	Elasticsearch のインストーラーを実行し
elasticsearch 684	ます。
Locations Service Configuration Plugins X-Pack	
Use default directories	デフォルトインストールディレクトリ
Use a custom installation directory	を使用します。
C\Program Files\Elastic\Elasticsearch\6.8.4 BROWSE	
Data directory C\ProgramData\Elastic\Elasticsearch\data BROWSE	
Configuration directory C\\ProgramData\Elastic\Elasticsearch\config BROWSE	
Logs directory C:\ProgramData\Elastic\Elasticsearch\logs BROWSE	
	サービスはデフォルト設定を使用しま
- olasticsparch 6 8 4	्र च
Clastic Configuration Plugins X-Pack	
Install as a service (start manually when needed) Install as a service	
Account information General properties	
 Use Local System account Use Network Service account Start the service after this installation is complete Start the service when Windows starts (Automatic) 	
C Existing user	
BACK NEXT	
	│ │メモリ割り当てはデフォルトでは 2GB
	となっていますがOS メモリの半分♪
elasticsearch 6.8.4	となっていますが、OS メモリの半分よ り小ない量を割り当てます
elasticsearch 6.8.4	となっていますが、OS メモリの半分よ り少ない量を割り当てます。
elasticsearch 6.8.4 Locations Service Configuration Plugins X-Pack	となっていますが、OS メモリの半分よ り少ない量を割り当てます。
elasticsearch 6.8.4 Locations Service Configuration Plugins X-Pack Identifiers Network (Optional)	となっていますが、OS メモリの半分よ り少ない量を割り当てます。
elasticsearch 6.8.4 Locations Service Configuration Plugins X-Pack Identifiers Network Cluster name elasticsearch Node name SRV01	となっていますが、OS メモリの半分よ り少ない量を割り当てます。
elasticsearch 6.8.4 Locations Service Configuration Plugins X-Pack Identifiers Network Cluster name elasticsearch Node name SRV01 HTTP port 9200 + Discovery (Optional)	となっていますが、OS メモリの半分よ り少ない量を割り当てます。
elasticsearch 6.8.4 Locations Service Configuration Plugins X-Pack Identifiers Network Cluster name elasticsearch Node name SRV01 HTTP port 9200 + Transport port 9300 + Data Master Ingest Minimum master nodes not set	となっていますが、OS メモリの半分よ り少ない量を割り当てます。
elasticsearch 6.8.4 Locations Service Configuration Plugins X-Pack Lidentifiers Cluster name elasticsearch Node name SRV01 HTTP port 9200 +- Transport port 9300 +- Discovery (Optional) Minimum master nodes not set +- Memory 4 GB/8 GB Unicast Hosts	となっていますが、OS メモリの半分よ り少ない量を割り当てます。
elasticsearch 6.8.4 Locations Service Configuration Plugins X-Pack Ldentifiers Identifiers Network Cluster name elasticsearch Network host Cluster name elasticsearch Network host Pote SRV01 HTTP port 9200 + Transport port 9300 + Discovery (Optional) Memory 4 GB/8 GB Unicast Hosts	となっていますが、OS メモリの半分よ り少ない量を割り当てます。
elasticsearch 6.8.4 Locations Service Configuration Plugins X-Pack Identifiers Identifiers Network Cluster name elasticsearch Network host Identifiers Network host Pata Master Ingest Memory 4 GB/8 GB Unicast Hosts Identifiers Network host 9200 + 9200 + 9300 + 9300 + 9200 + Transport port 9300 + Discovery (Optional) Minimum master nodes not set + Unicast Hosts Image: Instant of the set in the set	となっていますが、OS メモリの半分よ り少ない量を割り当てます。
elasticsearch 6.8.4 Locations Service Configuration Plugins X-Pack Identifiers Network host Cluster name Identifiers Cluster name SRV01 Network host Memory 4 GB/8 GB Discovery (Optional) Minimum master nodes not set +- Unicast Hosts • Lock JVM memory • Optional • Optional • Opti	となっていますが、OS メモリの半分よ り少ない量を割り当てます。

		プラグインの選択は特に必要ありませ
elasticsearch	6.8.4	h.
Locations Service Configuration	Plugins X-Pack	
Ingest Attachment Processor The ingest attachment plugin lets Elasticsearch ex PDF) by using the Apache text and metadata extr replacement for the mapper attachment plugin.	tract file attachments in common formats (such as PPT, XLS, and action library Tika. You can use the ingest attachment plugin as a	
ICU Analysis The ICU Analysis plugin integrates the Lucene ICU using the ICU libraries, including better analysic folding, collation support, and transliteration.	J module into Elasticsearch, adding extended Unicode support f Asian languages, Unicode normalization, Unicode-aware case	
Japanese (kuromoji) Analysis The Japanese (kuromoji) Analysis plugin integrate	s the Lucene kuromoji analysis module into Elasticsearch.	
Phonetic Analysis The Phonetic Analysis plugin provides token filter Soundex, Metaphone, and a variety of other algo	s which convert tokens to their phonetic representation using rithms.	
Smart Chinese Analysis The Smart Chinese Analysis plugin integrates the	Lucene Smart Chinese analysis module into Elasticsearch.	
Stempel Polish Analysis The Stempel (Polish) Analysis plugin integrates th EC2 Discoverv	e Lucene Stempel (Polish) analysis module into Elasticsearch.	
The FCD discovery plugin uses the ANAC ADI for up	BACK NEXT	
<u> </u>	- ¤ ×	Basic フィセンスを迭折します。
elasticsearch	6.8.4	
Locations Service Configuration	Plugins X-Pack	
License Basic -	Which license is for me?	
	Basic License Access to all free X-Pack Basic features without an expiry	
	date on the license.	
	Trial License Access to all X-Pack features for 30 days, including	
	Machine Learning, Graph, Alerting, Security, and others.	
	Full overview of licences and subscriptions	
	BACK	
		Elasticsearch のインストールが正常終了
	- <u>-</u> ×	することを確認します。
elasticsearch 💶	6.8.4	
Elasticsearch installed suc	ccessfully!	
What's Next?		
Open Elasticsearch in the browser Read "The Definitive Guide" for free online!		
Read the 6.8 API reference		
Find a client for your favorite language		
Open the Elastic Stack documentation after	exiting	
	EXIT	

-	localitost.9200	5	^				
←	→ C	 localhost: 	9200			Se y	7 6
}, }	number": 'v build_flave build_hash build_date build_snaps lucene_vers minimum_win minimum_inc gline": "\	'6.8.4", or": "unknown' ": "unknown' ": "bcaOc8d' ": "2019-10 shot": falss sion": "7.7. re_compatibii Jex_compatibi /ou Know, for	n", 16T06:1: 2", ity_ver: ity_ve ity_ve Search	9:49.319352 sion″: ″5 rsion″: ″5 ″	22″, .6.0″, 5.0.0″		

Windows サービスマネージャー (services.msc)で **Elasticsearch** サービスが 開始していることを確認します。 ブラウザー(Chrome または Firefox)で <u>http://localhost:9200</u> にアクセスし、エ ラーが発生しないことを確認します。

● Windows 版 Elasticsearch のインストール手順は以上です。

5.3. Elasticsearch の設定パラメーター

- Elasticsearch をクラスタで構成する場合には、上記のインストール手順を各ノードで実施します。次に 各ノードで C:\ProgramData\Elastic\Elasticsearch\config\elasticsearch.yml を開き、下記表のパラメータ ーを変更します。パラメーターのエントリが存在しない場合には手動で追加します。
- ここでは Elasticsearch 6.x でのパラメーターについて説明します。Elasticsearch 7.x のパラメーターにつ いては <u>Elasticsearch Reference</u> をご参照ください。

パラメーター名	既定值	説明
cluster.name	elasticsearch	クラスタ名
node.name	ホスト名	ノード名
bootstrap.memory_lock	false	true に設定することによりメモリスワッ
		プ発生を抑止します。
path.data	C:\ProgramData\Elastic\	データ保存ディレクトリ
	Elasticsearch\data	
path.logs	C:\ProgramData\Elastic\ Elasticsearch\logs	ログ保存ディレクトリ
discovery.zen.minimum_master_nodes	1	Elasticsearch クラスタを複数台で構成す
		る場合、ノードダウン時に "Split-Brain"
		と呼ばれるクラスタが分離する状態を防
		ぐため、マスター選出するための台数を
		指定します。

		原則として (ノード数/2)+1 の整数を指定
		します。たとえばノード数が3の場合は
		2を指定します。
discovery.zen.ping.unicast.hosts	127.0.0.1	Elasticsearch クラスタを複数台で構成す
		る場合、各ノードの IP アドレスまたはホ
		スト名を指定します。
		例:
		["ip-node1", "ip-node2", "ip-node3"]
network.host	0.0.0.0	Elasticsearch サービスがリッスンする IP
		アドレスを指定します。
		複数 NIC の場合にはサービスネットワー
		クの IP アドレスの指定を推奨します。

● C:\ProgramData\Elastic\Elasticsearch\config\jvm.options を開き、下記のパラメーターを変更します。コ メントアウトされている場合には行先頭の # を削除します。

パラメーター名	既定值	説明
-Xmx	-Xmx2047m	Java ヒープメモリの最大割り当て容量を指定します。マシ
		ン全体のメモリの半分より少なくなるように指定します。
		また 30GB を超えないように設定します。
-Xms	-Xms2047m	Java ヒープメモリの最小割り当て容量を指定します。マシ
		ン全体のメモリの半分より少なくなるように指定します。
		また 30GB を超えないように設定します。
-XX:HeapDumpPath		Java の OutOfMemoryException イベントが発生した時にヒー
		プダンプが保存されるディレクトリを指定します。
		例:
		-XX:HeapDumpPath=C:\ProgramData\Elastic\Elasticsearch\logs

5.4. Windows 版 Kibana のインストールと設定手順

- Windows 版 Kibana をインストールする手順について説明します。
- 次のサイトより Kibana の適切なバージョンをダウンロードします。Kibana のバージョンは Elasticsearch のバージョンと一致させる必要があります。

https://www.elastic.co/downloads/past-releases/#kibana

- Zip ファイルを解凍し、C:\ProgramData\Elastic\Kibana 配下に bin などすべてのフォルダを配置します。
- C:\ProgramData\Elastic\Kibana\config\kibana.ymlを開き、下記のパラメーターを変更します。

パラメーター名	既定値	説明
server.host	localhost	Kibana サービスがリッスンする IP アドレスを指定
		します。リモートアクセスする場合には必須の設
		定です。

elasticsearch.url	http://localhost:9200	参照する Elasticsearch の URL を指定します。
		elasticsearch.yml で network.host を設定した場合、
		その IP アドレスを含む URL に変更します。
logging.dest	stdout	Kibana ログの出力先を指定します。既定では標準
		出力のためログが保存されません。
		トラブルシューティングのため永続的なファイル
		のフルパスを指定することを推奨します。
		(例:
		C:\\ProgramData\\Elastic\\Kibana\\logs\\Kibana.log)

● C:\ProgramData\Elastic\Kibana\bin 配下の kibana.bat を実行し、listening と表示されることを確認しま す。

logging.dest を既定値の stdout から変更している場合には出力先ログファイルを確認します。

🚾 管理者: C¥Windows¥system32¥cmd.exe - kibana.bat —		×
log [07:50:55.108] [into][status][plugin:xpack_main@6.8.4] Status changed from red to green - Ready log [07:50:55.108] [into][status][plugin:spack_main@6.8.4] Status changed from red to green - Ready log [07:50:55.108] [into][status][plugin:spack_main@6.8.4] Status changed from red to green - Ready log [07:50:55.118] [into][status][plugin:spack_main@6.8.4] Status changed from red to green - Ready log [07:50:55.118] [into][status][plugin:spack_main@6.8.4] Status changed from red to green - Ready log [07:50:55.118] [into][status][plugin:spack_main@6.8.4] Status changed from red to green - Ready log [07:50:55.117] [into][status][plugin:spack_main@6.8.4] Status changed from red to green - Ready log [07:50:55.127] [into][status][plugin:spack_main@6.8.4] Status changed from red to green - Ready log [07:50:55.122] [into][status][plugin:logstash@6.8.4] Status changed from red to green - Ready log [07:50:55.122] [into][status][plugin:logstash@6.8.4] Status changed from red to green - Ready log [07:50:55.122] [into][status][plugin:logstash@6.8.4] Status changed from red to green - Ready log [07:50:55.129] [into][status][plugin:logstash@6.8.4] Status changed from red to green - Ready log [07:50:55.129] [into][status][plugin:logstash@6.8.4] Status changed from red to green - Ready log [07:50:55.129] [into][status][plugin:logscash@6.8.4] Status changed from red to green - Ready log [07:50:55.139] [into][status][plugin:logscash@6.8.4] Status changed from red to green - Ready log [07:50:55.139] [into][status][plugin:logscash@6.8.4] Status changed from red to green - Ready log [07:50:55.137] [into][status][plugin:logscash@6.8.4] Status changed from red to green - Ready log [07:50:55.137] [into][status][plugin:logscash@6.8.4] Status changed from red to green - Ready log [07:50:55.137] [into][status][plugin:logscash@6.8.4] Status changed from red to green - Ready log [07:50:55.137] [into][status][plugin:logscash@6.8.4] Status changed from red to green - Ready log [07:50:55.137] [into][status][plugin:logscash@6.8.4] Status cha	- Read Ready	^
er: mode: basic status: active log [07:50:56:026] learning[[reporting] Generating a random key for xpack.reporting.encryptionKey. To preven g reports from failing on restart, please set xpack.reporting.encryptionKey in kibana.yml log [07:50:56:72] [inito][status][plugin:reporting@0.8.4] Status changed from uninitialized to green - Ready log [07:50:57:50:57.07] [inito][status][plugin:reporting@0.8.4] Status changed from red to green - Ready	t pend	lin
log [U/:00:38.304] [werning][task_manager] lask vis_telemetry "oss_telemetry":s_telemetry" failed in attemp : [version_conflict_engine_exception] [_doc][oss_telemetry-vis_telemetry]: version_conflict, required sedNo.[13] y term [2], current document has sedNo [14] and primary term [2], with [_index_uuid="A_10084688Rnwiaabd+88.4A" & s & index="_kibana_task_manager"] log [07:50:59.106] [_into][_tistening] Server running at http://localhost:5601 log [07:50:59.106] [_into][_tistatus][plugin:spaces@6.8.4] Status_changed from red to green - Ready	t to r , prim nard="l	un ar O
		~

● ブラウザー(Chrome または Firefox)で <u>http://<kibana-ip>:5601</u>を開き、Kibana コンソールが表示されることを確認します。

● Kibana を Windows サービスとして管理するには、次のサイトから NSSM をダウンロードします。
 > https://nssm.cc/download

Ui Path[®]

C:\Program Files\nssm-2.24 に解凍し、win64 ディレクトリへ移動し、管理者権限で次のコマンドを実行します。

nssm.exe install "Elasticsearch Kibana" "C:\ProgramData\Elastic\Kibana\bin\kibana.bat"

■ 管理者: コマンドプロンプト	100		×
Microsoft Windows [Version 10.0.14393] (c) 2016 Microsoft Corporation. All rights reserved.			1
C:¥Windows¥system32>cd C:¥Program Files¥nssm-2.24¥win64			
C:¥Program Files¥nssm-2.24¥win64>nssm.exe install ″Elasticsearch Kibana″ ″C:¥ProgramData¥Elastic¥Kibana¥ Service ″Elasticsearch Kibana″ installed successfully!	bin¥kik	bana.ba	ıt″

- Windows サービスより Elasticsearch Kibana が起動できることを確認します。
- 次に Orchestrator から送信される実行ログを格納するインデックスに対してテンプレートを適用します。この処理は 2 つの目的があります。
 - ▶ シャード数を、パフォーマンス向上のために既定の5から2に変更します。
 - ログメッセージとプロセス名で日本語検索が行えるように Tokenizer として bigram の設定を行います。
- テンプレートを適用するために、Kibana の DevTools を開き、下記の API を実行します。

```
PUT template/uipath?include_type_name=true
{
 "index_patterns": [
  "default-*"
 ],
 "settings": {
  "index": {
   "analysis": {
    "analyzer": {
     "custom_bigram_analyzer": {
      "filter": [
       "lowercase"
      ],
      "tokenizer": "custom_bigram_tokenizer"
     }
    },
    "tokenizer": {
     "custom_bigram_tokenizer": {
      "token_chars": [],
      "min gram": "1",
      "type": "ngram",
      "max_gram": "2"
     }
    }
   },
   "number_of_shards": "2",
   "number_of_replicas": "0"
 }
 },
 "mappings": {
  "logEvent": {
```



```
"date detection": false,
 "dynamic_templates": [
  {
   "string_fields": {
    "mapping": {
     "type": "text",
     "fields": {
      "keyword": {
       "ignore_above": 1024,
       "type": "keyword"
      }
     }
    },
    "match_mapping_type": "string",
    "match": "*"
   }
  }
 ],
 "properties": {
  "@timestamp": {
   "type": "date"
  },
  "@version": {
   "type": "keyword"
  },
  "timeStamp": {
   "type": "date"
  },
  "message": {
   "type": "text",
   "analyzer": "custom_bigram_analyzer",
   "fields": {
    "keyword": {
     "ignore_above": 1024,
     "type": "keyword"
    }
   }
  },
  "processName": {
   "type": "text",
   "analyzer": "custom_bigram_analyzer",
   "fields": {
    "keyword": {
     "ignore_above": 1024,
     "type": "keyword"
    }
   }
  },
  "totalExecutionTimeInSeconds": {
   "type": "long"
  }
}
}
```

Ui Path[™]

- } }
- ▶ 注意:
 - ◆ Orchestrator のテナント名が default 以外の場合は、上記青字箇所 (default-) を変更します。
 - ◆ Elasticsearch が冗長構成の場合には、上記緑字箇所(number_of_replicas)の値を1以上に変更します。
- ▶ "acknowledged": true が返されることを確認します。

5.5. Orchestrator での Elasticsearch 接続設定と動作確認

Orchestrator から Elasticsearch ヘログ送信を行うには、Web.config の<targets>セクションの次の箇所で
 Elasticsearch の IP アドレスまたはホスト名を指定します。

```
<targets>
<target xsi:type="ElasticSearch" name="robotElastic" uri="http://<elastic-ip>:9200" ... /></target>
</targets>
```

● また<rules>セクションにて robotElasticBuffer が追加されていることを確認します。

```
<rules>
<logger name="Robot.*" final="true" writeTo="robotElasticBuffer" />
</rules>
```

- 上記設定では Elasticsearch のみに実行ログが保存されます。SQL Server と Elasticsearch の両方に設定 を保存するには、writeTo="database,robotElasticBuffer"と設定します。
- IIS マネージャーで Orchestrator サイトを再起動します。
- Kibana の Dev Tools を開き、次のリクエストを送信し、エラーが発生しないことを確認します。

POST default-2019.11/logEvent

"message": "Hello Elasticsearch!",

"@timestamp": "2019-11-01T00:00:00.0000000Z"

}

{

	kibana	Dev Tools History Settings He
	KIDdild	Console Search Profiler Grok Debugger
Ø	Discover	1 POST default-2019.11/logEvent
旈	Visualize	"message": "Hello Elasticsearch!", "_type": "logEvent", "@timestamp": "2019-11-01T00:00:00.00000002" "_id": "VMWgZ248F-62P4j048e4",
50	Dashboard	5 - } 5 - [Vestion : 1, 6 7 [vestion : 1, 7 [vestion : 1, created], 7 [vestion : 1, created],
₽	Timelion	8 "total": 1, ; 9 "successful": 1, "[61]************************************
盦	Canvas	110 Talled : 0 11^ }, 12 "_seq_no" : 0,
8	Maps	13 14 () 15
(°)	Machine Learning	

- Kibana コンソールを開き、Index Pattern を設定し、Create index pattern をクリックします。
 - Index name or pattern: default-*
 - Time filter field name: @timestamp

	kibana	Elasticsearch Index Management	Create index No default index	Create index pattern
â	Canvas	Index Lifecycle Policies Rollup Jobs	pattern. You must select or create one to continue.	Kibana uses index patterns to retrieve data from X Include Elasticsearch indices for things like visualizations. system indices
8	Maps	Cross Cluster Replication Remote Clusters		
(1)	Machine Learning	License Management 7.0 Upgrade Assistant		Step 1 of 2: Define index pattern
Ĝ	Infrastructure	-		default-*
j	Logs	Kibana Index Patterns		You can use a * as a wildcard in your index pattern. You can't use spaces or the characters /, ?, ", < >, , > Next step
сŋ	АРМ	Saved Objects		✓ Success! Your index pattern matches 1 index.
3	Uptime	Reporting		default-2019.11
Ģ	Dev Tools	Advanced Setungs		Rows per page: 10 🗸
æ	Monitoring			
	Management			
D	Default			
	Collapse			

● Discover メニューを開き、右上のタイムラインを Last 1 year に変更しログが表示されることを確認し ます。

	Libert	1 hit			New	Save	Open	Share	Inspect	C Auto-refresh	<	🖸 Last 1 year	>
	KIDANA	>_ Search (e.g. stat	us:200 AND ex	tension:PHP)						Opt	tions	් Refresh	
Ø	Discover	Add a filter 🕇											
旈	Visualize	default-*	0	November 3	3rd 2018, 21:52	:27.320 -	Novembe	er 3rd 2019), 21:52:27.3	20 — Auto	•		
5	Dashboard	Selected fields	1-										
₽	Timelion	Available ¢	0.8 - 12 0.6 - 0.4 -										
寙	Canvas	Ø @timestamp	0.2 -										
8	Maps	t_id	0	2018-12-01 2019-01-	01 2019-02-01		2019-04-01 @tim	iestamp p	2019-06-01 er week	2019-08-01	2019-09	-01	
ø	Machine Learning	t _index	_										
A	Infrastructure	# _score	Time	e –	_so	ource							
ЧШ Ш	mascructure	t _type	 Nover 	mber 1st 2019, 09:0	0:00.000 me	ssage: H	Hello Ela	sticsearc	n! @timest	amp: November 1st	2019,	39:00:00.000	
I	Logs	t message			_1	d: JBpM	MW48Py9F8	tk2abgv _	type: logE	vent _index: defa	ult-20	.9.11 _score: -	

Ui Path[®]

- 5.6. Linux 版 Elasticsearch のインストールと設定手順
- この章では Linux 版 Elasticsearch をインストールする手順について説明します。ここではインターネット接続可能な CentOS 7.7 を使用します。
- 次のサイトより Elasticsearch の適切なバージョンの RPM パッケージをダウンロードします。
 - https://www.elastic.co/downloads/past-releases/#elasticsearch
 - Elasticsearch 7.x は Orchestrator v2019 LTS 以降でサポートされます。
 - ▶ ここではバージョン 6.8.4 を使用します。次のコマンドでダウンロードします。

wget https://artifacts.elastic.co/downloads/elasticsearch/elasticsearch-6.8.4.rpm

- Elasticsearch の前提条件コンポーネントとして JRE (Java Runtime Environment) 64bit が必須となるため、 サポートされる Java バージョンを次のサイトで確認します。
 - https://www.elastic.co/support/matrix#matrix_jvm
- OpenJDK 1.8 をインストールします。
 sudo yum install -y java-1.8.0-openjdk java-1.8.0-openjdk-headless
- JAVA_HOME 環境変数を設定します。 export JAVA_HOME=/usr/bin/java
- Elasticsearch をインストールします。 sudo rpm -ivh elasticsearch-6.8.4.rpm
- 自動起動を有効化します。 sudo systemctl daemon-reload

sudo systemctl enable elasticsearch.service

● Elasticsearch がリッスンする IP アドレスを設定します。

sudo vi /etc/elasticsearch/elasticsearch.yml

- ホストの IP アドレスを network.host パラメーターとして指定します。
 - (例) network.host: 192.168.1.21
 - ▶ すべての NIC でリッスンするには 0.0.0.0 を指定します。
- Elasticsearch サービスを起動します。
 sudo systemctl start elasticsearch.service
- 接続確認をします。 curl http://<host-ip>:9200
- 正常にレスポンスが返されることを確認します。

{
"name" : "SReauCD",
"cluster_name" : "elasticsearch",
"cluster_uuid" : "QXuseRsAQji-bPcndIK6Xg",
"version" : {
"number" : "6.8.4" <i>,</i>
"build_flavor" : "default",
"build_type" : "rpm",
"build_hash" : "bca0c8d",
"build_date" : "2019-10-16T06:19:49.319352Z",
"build_snapshot" : false,
"lucene_version" : "7.7.2",
"minimum_wire_compatibility_version" : "5.6.0",
"minimum_index_compatibility_version" : "5.0.0"
},
"tagline" : "You Know, for Search"
}

5.7. Linux 版 Kibana のインストールと設定手順

- この章では Linux 版 Kibana をインストールする手順について説明します。
- 次のサイトより Kibana の適切なバージョンの RPM パッケージをダウンロードします。Kibana のバー ジョンは Elasticsearch のバージョンと一致させる必要があります。
 - https://www.elastic.co/downloads/past-releases/#kibana
 - ▶ ここではバージョン 6.8.4 を使用します。次のコマンドでダウンロードします。

wget https://artifacts.elastic.co/downloads/kibana/kibana-6.8.4-x86_64.rpm

- Kibana をインストールします。 sudo rpm -ivh kibana-6.8.4-x86_64.rpm
- 自動起動を有効化します。

sudo systemctl daemon-reload sudo systemctl enable kibana.service

● Kibana 設定ファイルを編集します。

sudo vi /etc/kibana/kibana.yml

● Elasticsearch/Kibanaのアドレスとログ有効化を設定します。

server.host: "<host-ip>" elasticsearch.hosts: ["http://<host-ip>:9200"] logging.dest: /var/log/kibana/kibana.log

● ログ書き込みの権限を付与します。

sudo mkdir -p /var/log/kibana sudo chown -R kibana:kibana /var/log/kibana

sudo systemctl start kibana.service

 次に外部接続を許可します。Elasticsearch ポート 9200 と Kibana ポート 5601 をそれぞれ許可し、ファ イアウォールのルールを再読み込みします。

sudo firewall-cmd --permanent --add-port=9200/tcp --zone=public sudo firewall-cmd --permanent --add-port=5601/tcp --zone=public sudo firewall-cmd --reload

- Orchestrator ホストからブラウザーを使用して http://<host-ip>:9200 および http://<host-ip>:5601 にそれ ぞれアクセスできることを確認します。
- Orchestrator との接続設定は各手順の関連箇所を確認します。
 - ▶ Elasticsearch 設定 ... <u>手順 5.3</u>
 - ▶ Kibana 設定 ... <u>手順 5.4</u>
 - ▶ Orchestrator 接続設定 ... <u>手順 5.5</u>

6. 種々の設定

6.1. UiPath Robot / Studio との接続設定

		Orchestrator から UiPath Robot /
UilPath		Studio に接続するには、Orchestrator
	マシン win10-(📀 クリップボードヘコピーしました。 🗙	管理コンソールでロボットのプロビ
■ +→-	7524-	ジョニングを行います。
アセット		
● 管理 へ	名前* -ルされたバージョン C win10-001	事前にマシンまたはマシンテンプレ
フォルダー	説明	ートを作成し、マシンキーを生成す
・ ユーザー		る必要があります。なおマシンキー
	キャンセル 更新	は自動生成され、手動で変更するこ
▼ パッケージ		とけできません
		C la C C a E No
		ロボット新規作成で [+] をクリック
		できない場合には、次のサイトを参
		照して Orchestrator のアクティベー
		ションを行います。
		https://docs.uipath.com/orchestrator/l ang-ja/docs/activating-your-license
		マシンキーをクリップボードにコピ
		ーしておきます。

 ● 接続が切断されました ● 接続が切断されました 	UiPath Robot がインストールされた 端末に管理者でログインし、通知領 域の Ui アイコンをクリック→歯車を クリック→Orchestrator の設定をクリ ックします。
U Orchestrator の設定 Orchestrator 構成 マシン名 WIN10-001 Orchestrator URL https://srv01.lab.local ~ マシンキー 41180640-2d4d-43da-9d81-0cd8eb5ff6b3 度続 ロボットログ レベル Information ~ ステータス: 接続が切断されました 閉じる	先ほどコピーしたキーをマシンキー フィールドにペーストし、 Orchestrator URL を入力し、接続ボタ ンをクリックします。
	「検証プロシージャによると、リモ ート証明書は無効です」または「こ の要求の送信中にエラーが発生しま した」というエラーが発生する場合 には、次のサイトを参照して、サー バー証明書を端末にインポートしま す。 <u>https://docs.uipath.com/orchestrator/l</u> <u>ang-ja/docs/using-a-certificate-for-the-</u> <u>https-protocol#section-exporting-self-</u> <u>signed-certificates</u> ※ 証明書ストアは現在のユーザーで はなくローカルコンピューターであ ることに注意してください。

		Orchestrator 上でマシンキーを作成
Ui Path ・ トリガー ・ キュー アオマト	ロボット ロボットグルーブ Default クラシックフォルダー × ② ▲ グローバル / Default: ロボット 核素 Q マシン: チベて × ユーザー名: チベて × 単原: チベて × ホスティングの種類: チベて ×	したマシンを使用して標準ロボット を登録し、ステータスが 利用可 と 表示されることを確認します。
 管理 へ フォルダー ユーザー 	ロボットグループ: すべて v ステータス: すべて v 3 約 0 マシン 0 コーザー系 0 器類 0 ロボットグループ ステータス * C 0 win10-001-user01 win10-001 lab/user01 ● Studio emv01 利用可	
 (凹) ロボット マシン ズッケージ 	<u>318 10 </u>	

6.2. Active Directory 連携

● Orchestrator を AD (Active Directory)と連携することにより、AD アカウントを使用して Orchestrator にロ グインすることが可能になります。

マリターネット インフォメーション サービス (マー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	S) マネージャー > UIPath Orchestrator >	- □ × 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 0 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 30 20 20 20 30 20 20 20 30 20 20 20 30 30 20 20 30 30 30 20 30 30 30 20 30 30 30 20 30 30 30 20 30 30 30 <	ホーム > 構成エディターを選択 し、セクションとして system.webServer/httpErrors を選 択します。 defaultPath を選択し、属性ロッ クの解除 をクリックし、適用 を クリックします。 Orchestrator サイトを再起動しま す。
	Login I vou are logging in on tenant Default. Change Username or ental * Password * I remember me Ergot your password? Locin Vou can also login with: Locin		ブラウザーで Orchestrator ログイ ン画面を開き、You can also login with [Windows] ボタンが表示さ れることを確認します。 一旦 admin アカウントでログイ ンします。

UiPath

【OC v2019 LTS】 管理 > ユーザー 画面にて [+] → デ ィレクトリユーザーまたはグル ープを追加 をクリックします。

アカウントをインポートする AD グループを選択し、適切なロー ルを指定します。

グループはあらかじめ AD で作成 しておきます。

ディレクトリグループとして Orchestrator 上にユーザーが作成 されます。

グループへのメンバー追加・変 更・削除は AD 上で行います。 Orchestrator に権限情報は自動的 に同期されます。

▲ プロセス ● b ● トリガー ● トリガー ● キュー ○ アセット ○ アセット ○ フォルダー 二 フォルダー 二 フォルダー ○ スホット ○ パッケージ ● 日本語 ●		++== F×1>8*			
 ▶ 9<i>1f</i> → 12<i>1f</i> → 12<i>1f</i> → 1 ▶ 12<i>1f</i> → 1 ▶ 12<i>1</i> → 1<th>プロセス</th><th>lab</th><th>~</th><th></th><th></th>	プロセス	lab	~		
 ■ キュー アセット アセット フォルダー ス・ク クォルダー ス・ク クォルダー ス・ク ロール Administrator マクティー 1-2/2 < < > エ・ブー キャンセル A00 	O トリガー	This field accepts Active Directory domain names that you want to search users in this directory	у.		+
 マセット アセット フォルター ユーダー ロール スオルター エッサー ロット キャンセル ADD 	. .	グループ名またはユーザー名* Orchestrator Admins	~	:: x. o	
7 24 2 3 0 10 10 10 11		This field accents Active Directory aroun names that you want to search users in this directory	strator	アクラ	-1
● 配理 へ ● プロパター 二 フォルダー 二 ユーザー ● ロボット ● パックージ ● 日本語 ・	アセット		Orchestrator Admin	15	1
● 管理 ▲ □ 74ルダー 二 3-ガー ① ロボット □ マシン ■ パックージ ● 日本語 ★		Administrator	×	アクラ	- 1
■ フォルダー 二 ユーザー (①) ロボット ① マシン ■ パッケージ ● 日本語 ▼	管理 へ		_		
 フォルター ユーダー ロボット マシン バッケージ 砂 日本語 ▼ 			1 - 2 / 2	< <	>
★ ユーザー 年ヤンセル ADD ロボット マシン ロバックージ 日本語 ▼	フォルダー				
 □ ロボット □ ボット □ ボッケージ ● 日本酒 ・ 		キャンセル	ADD		
 □ τ >> □ π >><th>ぷ ユーザー</th><th></th><th>100</th><th></th><th></th>	ぷ ユーザー		100		
 マシン ボッケージ ● 日本語 ▼ 					
 パッケージ ● 日本語 * 	ユーザー (□) ロボット				
	 エーザー (一)・ロボット □ □ マシン 				
	 ユーザー (一)・ロボット マシン パッケージ 				
	エーザー ロボット マシン バッケージ				
	エーザー ロボット マシン バッケージ				
	 ユーザー ロボット マシン パッケージ ① 日本語 ▼ 				
	 ユーザー (回) ロボット マシン パッケージ (ロックージ) 日本語 マ 				
	 エーザー ロボット マシン パッケージ 田本語 ▼ 				
	 ユーザー (☆) ロボット マシン ボッケージ (ボッケージ) (日本志 ▼ 				
	 ユーザー (□)・ロボット マシン パッケージ ● 日本語 ▼ 				
	 ユーザー (四) ロボット マシン ボックージ (パックージ (パックージ) (日本語 ▼ 				
	 エーザー (□) ロボット マシン パッケージ 田本語 ▼ 				

ディレクトリ ユーザーまたはグループを追加

	_ ユーザー □−ル 🗈 Default ② 🖡 🙆
オートメーション ヘ	グローバル:ユーザー
♣ プロセス	検索 Q タイプ: すべて > ステータス: すべて >
	□ ユーザー& ^ ※ & 0 ※ 推 0 ※ 3 0 ※ 前風_ 0 ※ ロール ※ ステー_ 0 C
7ty>	admin admin_13分前 Administrator アクティブ
● 管理 へ	□ ♣ orchestrator admins@lab Orchestrator Admins Administrator アクティブ
■ 7+1.4-	□ (⊕) win10-001-user01 Robot アクティブ
X 1-7-	項目 10 👻 1-3/3 (く く > >)
(二)・ロボット	
 マシン パッケーゴ 	
 ▲ ハッワーン ● 日本語 ▼ 	

Ionin Windows 世生30月7 Windows 世生30月7 Sv05.lab.local へ提続しています。 (スワード パスワード パスワード ドメイン: LAB 団 留格/目報を記信する OK キャンセル Undows Undows	ー旦ログアウトし、[Windows] ボ タンをクリックします。 資格情報ダイアログが表示さ れ、Windows 認証によりログイ ンできるようになります。
*C:WProgram Files (x80)WUPathWOrchestrator#Webconfig - Notepad++ [Administrator] - - × ?r/l/L() 編集() 株式() オンコード() 貫通() 設定() パール() マグロ() ま行() ブラグイン() × × × ?r/l/Pergum 2 × × × × × ?wWebconfig 2 × *	Orchestrator 管理画面に自動的に ログインするには次の手順を実 行します。 Orchestrator サイトの Web.config を編集します。 <appsettings> <add <br="" key="
WindowsAuth.AutoLogin.Enabled">value="true" /> </add></appsettings>

セキュリティ設定・信頼されたゲン × ・ 「使定 ・ 「● 有効にする ・ 「「「」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」	セキュリティ > ローカルイントラ ネットまたは信頼されたゾーン (Orchestrator URL が含まれるゾー ン) > レベルのカスタマイズ > ペ ージの自動読み込み を有効にす る
セキュリティ設定・信頼されたゲン × ジア 毎効にする	ユーザー認証 > ログオンにて「現
() 有効にする	在のユーザー名とパスワードで
() 有効にする ・ シアノいのクラウロード	自動的にログオンする」を選択
() 有効にする ・ ● オンパン ・ ● オンパン ・ ● 「日のコーデーをおけていつードでを入りにログガンチョる ・ ・コンピューターの再起動後に有効になります ・ カスクム設定のリセット リセット リセット ・ ・ ○ K キャンセル	して、OK をクリックします。

				ブラウザーで Orchestrator URL に
Ui Path			0 🔺 🛆	リクセスすることにより、 Windows 認証後 ダッシュボー
(=) ROBOTS	#	0	0	ドが表示されるようになりま
PROCESSES	PROCE	SSES	ASSETS	す。
JOBS	QU	0 🔞	0 SCHEDULES	
C SCHEDULES	ROBOTS Available Bury Disconnected	JOBS No data to show		

6.3. 高密度 (High Density) ロボットの使用

- 高密度ロボットを使用することにより、Windows Server 上で同時に複数ユーザーにてジョブを実行で きるようになります。ジョブ実行時には RDP を使用して複数セッションを確立するため、ロボットが 配置された Windows Server ではリモートデスクトップセッションホストの役割と RDS CAL ライセンス が必要となります。
- ジョブ実行時の RDP セッションは、ロボット端末において UiPath Robot サービスがループバックイン ターフェース (127.0.0.1) に対して開始するため、ファイアウォールのポートを新たに開ける必要はあ りません。
- 参照: <u>https://docs.uipath.com/robot/lang-ja/docs/setting-up-windows-server-for-high-density-robots</u>

				コンピューターの管理
③ コンピューターの管理 ファイル(F) 建作(A) 表示(V) A.D.70 ● ● ② □○ ● ● ● ② ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	H)	Remote Desktop Usersのプロパティ 主役 主役 記明(E): このグループのメンパーにはりモートからログオンダ ています。 新属するメンパー(M): ▲ LAB#USER1 ▲ LAB#USER2	-	コンピューターの管理 (compmgmt.msc)を開き、Remote Desktop Users にジョブの実行ユー ザーまたはグループを追加しま す。 またそれぞれのユーザーでリモー トデスクトップ接続できることを 確認します。
 □ -カル グルーブ ポリシー エディタ ファイル(E) 操作(A) 表示(Y) ■ (A) 検示(Y) ■ (A) 検示(Y) ■ (A) 検示(Y) 	We storage Replica Administrators 2 We System Managed Accounts Gro 2 Me Users	d 935Eh. 2 OK キャンセル 適用(A)		グループポリシーにて RD セッショ ンホストのライセンスサーバーと モードを設定します。
 マンテナンススケ ジンテナンススケ ジレモートデスクト: RD ライセン) ジーレートデス RD 振振 アブリケ ゼキュリ セキュリ セキュリ ブリスク ブレスク ブレスク	ジューラ ジゴーラ ジブサービス ス クトッブセッションホスト 転口ーカー ーションの互換性 ディ シンの時間制限 とリソースのリダイレクト ーのリダイルクト イル レクト ップ接続のクライアント ・ ・ 、 並 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	定 諸定のリモート デスクトップライセンス サーバーを使用する RD セッション ホスト サーバーに影響を及ぼす RD ライセンス リモート デスクトップ ライセンス モードの設定 强入標準/	秋部 JX2F 有効 いいえ ホーム ボルネー ボルネー ボル ボルネー ボル ボル	 (設定しない場合は120日前計価加 として動作します) コンピューターの構成>管理用テ ンプレート>Windows コンポーネ ント>リモートデスクトップサー ビス>リモートデスクトップセッ ション>ライセンス にて次のポリ シーを設定します。 指定のリモートデスクトップ
				 file file j f

			Orchestrator でロボットをプロビジ
			 ョンする際、同一マシンに対して
UiPath 🗆	ボット 説明	▶ Default クラシックフォルダー >	実行ユーザーをそれぞれ指定 ま
 ジョブ ♪ ↓ ↓<td>パローパル / De 標準ロボットを新規作成 標準ロボットは1台の標準マシン上で動作します。</td><td>豊 すべて マニ ロボットグループ: すべて マ</td><td></td>	パローパル / De 標準ロボットを新規作成 標準ロボットは1台の標準マシン上で動作します。	豊 すべて マニ ロボットグループ: すべて マ	
= n#	ステータス: す マシン* srv05	~	9 ₀
オートメーション ^	□ 名前 ≎ 8前 * sr\05-H0-user03	□#>>7/1-7 :: 29-92 ~ C	
 ゴロセス トリガー 		利用可 :	[設定]タフをクリックします。
E +1-		em/01 4086	
 ● 管理 	資格情報ストア Onchasteria Database	10 - 1-3/3 (< < > >)	
■ フォルダー	ドメインユーザーを・		
ユーザー(三) ロボット	145/056/03		
Q 792		<u></u>	
■ バッケージ	🛃 もうひとつ作成	キャンセル 作成	
日本語 -			
			リモートデスクトップセッション
			でジョブが実行されるように、コ
	説明	設定	
	ログレベル Information	~ 🕞	
	開発ログを許可		え を選択します。
	●はい ○ いいえ		
	コンソールヘログイン 〇 はい () いいえ		
	解像度の幅 0		
	- - 		
	0		
		キャンセル 更新	
グローバル / Default: ロオ	ペット		接続設定を行い、複数ロホットで
検索へ	マシン: srv05 × ユーザー名: すべて > 種類: すべて >	ホスティングの種類: すべて > ロボットグループ: すべて >	利用可 になることを確認します。
ステータス: すべて ∨	Reset to defaults		
	:: マシン ◇ :: ユーザー名 ◇ ::	◦ ロボットクループ ステータス ∧ C tended env.↓D 利用元 :	
Srv05-HD-us	er02 srv05 lab\user02 Unat	tended envHD 利用可	
□	er03 srv05 lab\user03 Unat	tended env-HD 利用可	
		項目 10 👻 1-3/3 🛛 🗸 👗 岁	

	右上のユーザーゝライセンスゝ
	Unattended を選択し、高密度ロボ
UiPath ライセンス > Unattended	└ アララシッフフォルテ- ヽ ◎ ▲ 🍊
■ オートメーション ヘ ガローバル: ライセンス > Unattended ▲ プロセス 絵志 Q ライサン21/99 オペデ ↓	
Aligned (Control of the control	
Image: state	 ・ ・
 ● 管理 	
	上で同時実行することができま
	す。あらかじめ必要数のライセン
	スを準備する必要があります。
ランタイムを編集 srv05	
グローパル: ライ () 有効なランタイム: ランタイムの数	ここではランタイムを3に変更し
3	ます。
₹\$ 2 ¢	C
sn05 閉じる	
	│ ジョブを同一マシン上の複数ロボ
Ill Path	ットで同時実行します。
ジョブを開始 ジョブを開始	
LogLevel_Test_even+10	
	1: XDR 0 C
□ 1 検索 Q ステータス: T << マ	
■ オートXーション A ■ ロボット 0 マシン 0 ステー・ × 3連邦した行	C C C
▲ キュー ② ◎ nd5HDuset2 snd5 利用可 □ 7tt 2 ト	
● 取取 へ 取 (1-3/3) ● 取取 へ 取 (1-3/3)	
1 741/4-	
	477E/ R
	すべてのロボットでジョブ実行が
切Path ジョブ ジョブの概要	成功することを確認します。
■ <u> 国</u>	
(2) ロボット 検索 Q 秋季:成功 ∨ 質行元: デベて ∨ インターパル: 造点:1日間 ∨ Result to de	with C
ジョブ ゴロセス 0 ロボット 0 ロボットガループ 秋風 0 株面 0 キュー	ит о жня о С
ログ LogLevel_Test sn05HD/seed3 em+HD 単規 159HI LogLevel_Test sn05HD/seed2 em+HD 単規 159HI	取約前 手動 : 取約前 手動 :
■ オートメーション ∧ □ LogLevel_Test sn/05HD use01 em/HD ◎ 成功 1分前	108前 手動 :
• 59%-	1400 v 1−3/3 [ζ ζ ≽ >]

6.4. テナントの作成

- Orchestrator インスタンスを論理的に分割し、マルチテナント環境を構成することが可能です。
 - テナントの詳細はこちらをご参照ください: <u>https://docs.uipath.com/orchestrator/lang-ja/docs/about-tenants</u>

Login Tenant name host Username or email* admin Password*	 新規インストール時では Default という名前のテナントが作成されます。追加のテナントを作成するには、次のアカウントで Orchestrator 管理コンソールにログインします。 Tenant name: host Username: admin Password: 【OC v2019 FT】 インストール時に指定した既定テナントのパスワード> 【OC v2018.4】 3edcVFR\$
Poth ライセンス ● コイブラリ クイセンス (1000 (10	ログイン後、ライセンス画面 にてアクティベーションを行い、各テナントにライセンスを割り当てることができます。 既に Default テナントでライセンスを割り当て済みの場合には一旦削除し、host テナントでログインした後、ライセンスを再度アクティベーションします。

 ● Path テナント ペ 転車場 ● ライブラリ ● 市場 へ 日 ライセン ● 日本局 へ 日 ライセン ● 日本局 へ 日 ライセン 	F+>>ho7DĽÝ3=ニング 97>>6 admin 2-9-6 admin 64 8 ×-h7FLX /LX2-F* 0 /LX2-F* 0 /LX2-F* 0 ++>th 7DĽÝ3=ニング	 クリックし、テナント名および admin パスワードなどを入力し、プロビジョニングをクリックしてテナントを作成します。 注意:テナントを無効化することは可能ですが、削除や名前変更はできません。
Path テナント **< 生産総構 ** テイブラリ ** テイブラリ ** テイント ** ライセンス ** Rit ** Rit	: すべて マ 	各テナントに対して、ライセンスの割り当てをクリックし、ライセンスの配分を行います。 ます。 まます。 まます。 まます。 まます。 まます。 ます。 ます。
	Login Tenant name NewTenant Username or email * admin Password * Paseword *	一旦ログアウトし、作成した テナントに対してログインで きることを確認します。

Ui Path[™]

6.5. 組織単位 (ユニット)の作成

- 【OC v2019 FT 以前】Orchestrator v2018.4 および v2019 FT では組織単位 (ユニット) を使用することにより、テナント内の Orchestrator コンポーネントを論理的に分割することが可能です。
 - 詳細はこちらをご参照ください: <u>https://docs.uipath.com/orchestrator/lang-ja/v2018.4/docs/about-organization-units</u>
 - Orchestrator v2019 LTS では組織単位はフォルダーと呼ばれる機能に置き換えられました。詳細は こちらをご参照ください: <u>https://docs.uipath.com/orchestrator/lang-ja/docs/about-folders</u>

Uppath Provision Unit Provision Unit Processes UBRARIES UBRARIES JOBS Items: 10 * IN < Page 1/1 > IN Items: 10 * IN Schedules	[+] をクリックし、ユニット名を 入力、[PROVISION] をクリック し、ユニットを追加します。 ユニットに所属するユーザーを選 択し、[UPDATE] をクリックしま す。
UPath Povision User MACHINES MACHINES MACHINES UBRARES UBRARES SofieDULES SofieDULES Outlets Pasaword Image: Conference of the second Image: Conference of the second <	ユーザーを作成または編集し、権 限を持つユニットを選択します。
Ui Path Image: Processes Image: Processes Image: Ima	現在のログインユーザーで権限を 持つユニット一覧が表示され、切 り替えが可能になります。

7. アップグレード

7.1. アプローチ策定

- Orchestrator アップグレード手順は、大別するとインプレースアップグレードと別建てアップグレードの2通りがあります。
 - ▶ インプレースアップグレードは既存環境に上書きでアップグレードします。
 - 別建てアップグレードは新規環境を構築し、必要に応じてデータ移行した後、アップグレードを行います。
- 両者の主なメリットとデメリットは下記の通りです。これらを考慮してアプローチを策定します。

	インプレースアップグレード	別建てアップグレード
メリット	既存サーバーをそのまま利用できる。	アップグレード後に問題が生じ、ロールバ
		ックが必要となった場合には、切り戻しが
		容易にできる。
デメリット	アップグレード後に問題が生じ、ロールバ	新規サーバーを構築する必要がある。
	ックが必要となった場合には、Orchestrator	上書きアップグレードに比べて手順が煩雑
	の再インストールと、バックアップからの	となるため、事前のリハーサル実施などに
	復旧が必要となる。	より手順の精緻化が推奨される。

7.2. 事前確認項目

- Orchestrator アップグレードを行う際には、Studio / Robot のバージョンとアップグレード後の Orchestrator バージョンで互換性があるかを確認します。
 - ▶ 本文書では Studio / Robot のアップグレード手順については言及しません。
 - 詳細はバージョン互換性マトリックスを参照してください。通常は、最初に Orchestrator をアップ グレードしてから、Robot をアップグレードすることをお勧めします。 https://docs.uipath.com/orchestrator/lang-ja/docs/about-backward-and-forward-compatibility

7.3. 事前作業

- Orchestrator アップグレード作業を行う前に、不測の事態に備えてバックアップを取得します。バック アップ項目は下記の通りです。
 - Orchestrator インストールディレクトリ配下のファイルすべて
 - ◆ v2018.1 以降デフォルトでは C:\Program Files (x86)\UiPath\Orchestrator です。

 - ♦ Web.config は必ずバックアップします。
 - ➢ NuGet Packages 配下の Activities と開発されたパッケージ
 - ♦ 【OC v2018.4】 デフォルトでは C:\Program Files (x86)\UiPath\Orchestrator\NuGetPackages です。

◆ 【OC v2019 FT 以降】新規インストールのデフォルトでは C:\Program Files

(x86)\UiPath\Orchestrator\Storage です。

- ▶ "UiPath" データベース
 - ◆ 次の手順にてデータベースのバックアップを取得します。

				SSIVIS IC C UIPath J - X -
				$+ h \parallel \dots h \mid h \neg h \cdot \dots $
Microsoft SOL Serv	er Management Studio			ロクリックし、ダスク>ハッ
アイル(F) 編集(F) 表	ま示(V) デバッグ(D) ツール(T)	ウィンドウ(W) ヘルプ(H)		
3 - 0 117 - 11	- 🎦 🗎 🖉 🗐 新しいクエリ(N	自命ののなようかり、C・同		フを選択します。
	C			
R (local) (SOL Serve	er 14.0.1000.169 - uipath sol)			
🖃 📕 データベース				
⊞ 🛑 システムデー	タベース			
	ステラノショット			
H 🖬	新しいデータベース(N)			
E .	新しいクエリ(Q)	デタッチ(D)		
	データベースをスクリプト化(S) ・	+7= () (++3 (0)		
	タスク(T) ・	ハノフ1ノにする(I) オンラインにする(I)		
•	ポリシー(O)	17717167 0(1)	_	
•	ファセット(A)	抵摄(S)	•	
æ 🖷 👘	PowerShell の起動(H)	列の暗号化		
	L#= 5(D)	Classify Data		
	V/N-I'(F)	脆弱性評価(V)	•	
🗉 🛑 PolyBa:	名前の変更(M)	压縮(S)	•	
Always	則际(D)	バックアップ(B)		
■ 管理 ■ Integra	最新の情報に更新(F)	復元(R)	•	
	フロバティ(R)	75 A.D.		
				バックアップ先を指定して
				バックアップ先を指定して、
<u>₩</u> ₹_86_206%97%7_1	1.Quelo	X	1	バックアップ先を指定して、 アップを作成します。
■ データペースのパックアップ・U ペープの選択	19an) □ 2017ト • ♀ ∧3-7	×		バックアップ先を指定して、 アップを作成します。
 <i>〒</i>-9バースのパックアップ・Ut ペープの波訳 <i>メ ジ 役 オプシン</i> <i>メ グ 代 オプシン</i> 	19ah ⊈ 2017h × @ ∧187	- D X		バックアップ先を指定して、 アップを作成します。
 ← -9ペ-スのパックアッブ - U	19ah	×		バックアップ先を指定して、 アップを作成します。
 ← - タベースのパックアップ・UK	IDeah 「2017ト・●へい7 ソース データヤース(2) 現在デバルタ 元	X		バックアップ先を指定して、 アップを作成します。
 ■ データペースのパックアップ・UK ページの定要 チ 生発 メリア オフリルン メリア オフリルン 	iPath 「2007ト・● Aは7 ソース デーヤー-20」 総モモデル40 同 「ビケアンの酸化の 同 「コーマールApplicをのよりの	X		バックアップ先を指定して、 アップを作成します。
 ■ データベースのパックアップ - U ペープの使用 タークの使用 タークの使用 タークタークション メリアクトアンシン メリアクトアンシン 	IPach	- D X Paña v 2 2 2 2 2 2		バックアップ先を指定して、 アップを作成します。
 ■ データパースのパックアップ - UK ペラクロセス ▶ 支援 ▶ ジボマイオフシュン ▶ パックアップオブション 	20/7ト ・ ● ヘルフ ソース アーラベース() 10/97・7人() 10/97・10/94 10/9	- D X Pati v 2 v		バックアップ先を指定して、 アップを作成します。
 ■ F-9K-30(977)7-0 ★ 500000 ★ 5000000 ★ 5100 17100 ★ 100777 17100 	10-mh □ 20/07 ト・● へルフ ダータイース(D) ● ● 10077-730種類(C) 一座 日 コナーのみんりは579-570 10079-730種類(C) 一座 の子ーターペース(D) 0.2574 日本見(D) - 727 ○ 二次(14年見(D) - 727 ○ 二次(14年日)(D) - 727 ○ 二次(14年日)	×		バックアップ先を指定して、 アップを作成します。
 ■ デージベースのパックアップ・U 木一支の原 ★ 100 オリシュン メリシュン メリション メリション 	19-20h 【 2017ト ・ ● へルフ デーシャーへ2① 1000 77-700年紀の 東 11-077-700年紀の 東 1-077-700年紀の 東 の子ーシャーへ20 の子ーシャーへ20 の子ーシャーへ20 の子ーシャーへ20 の子ーシャーへ20 の子ーシャーへ20 の子ーシャーへ20 の子ーシャーへ20 の子ーシャーへ20 同日 1-077-70年の 1-0777年の 子ー 1-0777年の 子ー	×		バックアップ先を指定して、 アップを作成します。
 ■ データベースのパックアップ - U ペープの変更 タ がり、デリアルン タ パリ・デリアルン タ パリ・デリアルン 	IPenh	×		バックアップ先を指定して、 アップを作成します。
 ■ データベースのパックアップ - U ペープの変更 メタス メタス<!--</td--><td>89mh 1 2017ト ・ ● へら7 9-2 9-9-7-20 109777308400 元 □ コモーあみら3797570 109777308400 元 109777308400 元 109777300 ○ ○ (F484017F4 78 – 7 ○ ○ (F484017F4 78 – 7) ○ ○ ○ (F484017F4 78 – 7) ○ ○ (F484017F4 78</td><td> X Pan 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2</td><td></td><td>バックアップ先を指定して、 アップを作成します。</td>	89mh 1 2017ト ・ ● へら7 9-2 9-9-7-20 109777308400 元 □ コモーあみら3797570 109777308400 元 109777308400 元 109777300 ○ ○ (F484017F4 78 – 7 ○ ○ (F484017F4 78 – 7) ○ ○ ○ (F484017F4 78 – 7) ○ ○ (F484017F4 78	X Pan 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		バックアップ先を指定して、 アップを作成します。
■ データパースのパックアップ・UK ペラの成果 ターズ目 ターズ目 メリアパイオアション メリアパイオアション メリアパイオアション	20/07 + ● へルプ yース、 Tーがくース() WE ビアル型 Tーがくース() WE ビアル型 Tーがくース() WE アル型 Tーがくース() We アーペース・ S・デーペース・ S・デーペース・ S・デーペース・ S・デーペース・ S・デーペース・ D・アンプス エル・ S・デーペース・ S・デース・	X Path v 2 2 2 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3		バックアップ先を指定して、 アップを作成します。
■ データベースのパックアップ・U 本 300年 参 350年 参 3570年まである。 参 1570年まである。 参 1570年まである。 ● 1	19-06 「2027ト・●へルフ ダーヤースD」 (U) 19677730年20 第 19677730年20日 第一世ーのあるいらのアップの 19677737年20日 の子ーのようのの 1967777年20日 の子の中のようの 196777年20日 196777年20日 196777年20日 196777年20日 196777年20日 196777年20日 196777年20日 196777年20日 196775 196775 196775 196775 196775 19775	×		バックアップ先を指定して、 アップを作成します。
	IPenh 20/71 - ● ∧1/7 y-2, y-2	X		バックアップ先を指定して、 アップを作成します。
■ データベースのパックアップ・U ページの使用 タージの タージの メリア・オフルシン メリア・オフトシン メリア・オフト メリア・オフト メリア・オフト メリア・オフト メリア・オフト メリア・オフト メリア・オフト メリア・オフト メリア・オフト メリア・オフト メリア・オフト メリア・オフト メリア・オフト メリア・オフト メリア・オフト メリア・オフト メリア・オフト メリト ・ メート ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	17 20171 • ● ∧167 17 20171 • ● ∧167 17 20171 • ● ∧167 17 20171 17 2017 17 201 17	- D X 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		バックアップ先を指定して、 アップを作成します。
■ データパースのパックアップ・UK ペラの確実 メ 定く オリシン メ パマクオリシン メ パマクマリオブシン メ パックアップオブシン メ パックアップ メ パックアップオブシン メ パックアップ メ パックアップ メ パックアップ メ パックアップ メ パック の 来 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	20/71 - ● へいフ ソース リーク マークト	- D X Pan v 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		バックアップ先を指定して、 アップを作成します。
	19-bh □ 20/07 ト・● へら7 ダータペース(D) (U) 10/077-20(14(24)) 死 10/077-20(14(24)) 死 □ 24-08-01/079-20(14) ● データーペース(D) ○ 25(-08-01/07)-20(11) 10/077-75(0) (E) 10/077-75(0) (E) 10/077-75(0) (E)	X		バックアップ先を指定して、 アップを作成します。
	iPech 2.20/7ト - ● ∧1/7 9-2,	- C X 24 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		バックアップ先を指定して、 アップを作成します。
 ■ データパースのパックアング・U ペープの使用 ターダイク・クリンシー ターダイク・クリンシー メック・クリンシー メック・マッシー メック・マック・ション メック・ション メック・ション<	10-enh	- C X 22 22 (22 (22 (22 (22 (22) (22) (22) (バックアップ先を指定して、 アップを作成します。

7.4. インプレースアップグレード (スタンドアローン構成)

- スタンドアローン構成の Orchestrator をインプレースアップグレードする手順を説明します。
 - Orchestratorの IIS サイトを停止します。
 - 既定のインストールパスは C:\Program Files (x86)\UiPath\Orchestrator ですが、これ以外のパスに上 書きインストールするには、 ORCHESTRATORFOLDER オプションにて明示的にインストールパスを 指定することを推奨します。

Ui Path[®]

- アップグレードインストール失敗時に備えて /I*vx <ログファイル名>オプションにてインストー ルログを取得します。
- インストール方法については<u>手順 3.2</u>を参照します。ただしデータベース設定などは Web.config から引き継がれるためインストール時には再設定できません。
- Orchestratorの IIS サイトを開始します。
- インストールオプションの実行例を示します。管理者権限コマンドプロンプトで実行します。

msiexec /i UiPathOrchestrator.msi ORCHESTRATORFOLDER=C: \inetpub UiPathOrchestrator /l*vx Orchestrator_install.log

7.5. インプレースアップグレード (冗長化構成)

- 冗長化構成の Orchestrator をインプレースアップグレードする手順を説明します。
 - 各 Orchestrator ノードにおいて、スタンドアローン構成と同様にインストーラーを使用してアップ グレードします。(手順 7.4 参照)
- Configure-PlatformNode.ps1 スクリプトを使用して Orchestrator を再構成します。(手順 3.3 参照)
- インストール後、Web.configをバックアップと比較して修正します。アップグレード前後で特に留意して同じ値を設定しなければならない項目は下記の通りです。
 - EncryptionKey
 - COC v2019 FT 以前】OrganizationUnit.Enabled
- Redis キャッシュを次のコマンドを使用してフラッシュします。

redis-cli -h <redis-ip> -a <redis-password> -n 0 FLUSHDB

7.6. 別建てアップグレード

- Orchestrator 環境を別建てしてアップグレードする手順について説明します。
- まず既存環境と同じバージョンの Orchestrator を新環境に新規インストールします。
- データ移行を行う場合は次の手順を実行します。
 - ▶ Web.config と NuGet Packages/Activities を既存環境からコピーします。
 - データ移行を行う場合は、既存環境のバックアップを使用して新環境でデータベースを、次の手順にてリストアします。

● 冗長構成の場合は Redis キャッシュを次のコマンドを使用してフラッシュします。

redis-cli -h <redis-ip> -a <redis-password> -n 0 FLUSHDB

Ui Path[®]

- 必要に応じて Orchestrator と Robot の基本的な動作確認を行います。主な検証項目は下記の通りです。
 - ▶ Orchestrator 管理コンソールへのログイン
 - ▶ Robot のプロビジョニング
 - ▶ パッケージのアップロード(各サーバーで動作確認するため複数回実行します)
 - プロセスのデプロイと実行
- Orchestrator の IIS サイトを停止します。
- 新規バージョンにアップグレードを行います。
- 冗長構成の場合は Redis キャッシュをフラッシュします。
- 各 Robot の接続先を切り替えます。
 - URL に変更がなく IP アドレスのみが変更となる場合は、DNS レコードを更新した後、各 Robot 端末 で DNS キャッシュをフラッシュするために OS を再起動するか管理者権限で次のコマンドを実行し ます。

ipconfig /flushdns

- URL が変更となる場合は、各 Robot 設定で一旦 Orchestrator から切断し、新規 URL とマシンキー (ロボットキー)を使用して Orchestrator に再度接続します。
- 再度動作確認を行います。

7.7. ロールバック手順

- Orchestrator をロールバックする手順について説明します。
- インプレースアップグレードを行った場合は次の手順を実行します。
 - Orchestrator を アプリケーションの追加と削除 からアンインストールします。インストールディレクトリにファイルが残っている場合は別ディレクトリに移動します。
 - ➤ "UiPath" DB を一旦削除し、新規で再作成します。
 - ▶ Orchestrator の以前使用していたバージョンで再度インストールします。
 - Web.config と NuGet Packages / Activities をバックアップから元ディレクトリにそれぞれコピーします。
 - ➤ "UiPath" DB をバックアップからリストアします。
 - ▶ 冗長構成の場合は Redis キャッシュをフラッシュします。
- 各 Robot の接続先を切り替えている場合には切り戻します。
- Orchestrator と Robot の基本的な動作確認を行います。

以上